

学生による ACT プラン評価

第1節 はじめに

体験と省察とを往還させる教員養成カリキュラムの趣旨は、学生が早い時期から教育現場の実際に触れ、教育を受ける立場から教育を行う立場へと、立場を移動しながら教育実践を考えられるようにすることを狙いにしている。その狙いがどの程度達成されたのか、残された課題は何なのかを明らかにすることは大きな意義がある。岐阜大学教育学部は教員としての実践的な力を育成していくために、大学で『理論』を学び、教育現場で『実践』を学び、両者の往復的な学習を可能とする、教職トライアル、教職リサーチ、教職プラクティス、教職インターンと続く ACT プランを実施してきた。今年の4年生はその第1期生に当たる。そこで教育学部運営委員会では学部教育の一層の充実のため「4年生による ACT プラン評価」を行うことにした。また全体の意見集約を目的にしており、個人を特定することはないので、匿名でお願いした。

図1は、回答率を講座ごとに示している。全体の回収率は70%であった。全員が回答した講座、回収が少ない講座など、講座の違いを見ることができる。学務委員の先生の対応も違っていたためとも考えられる。

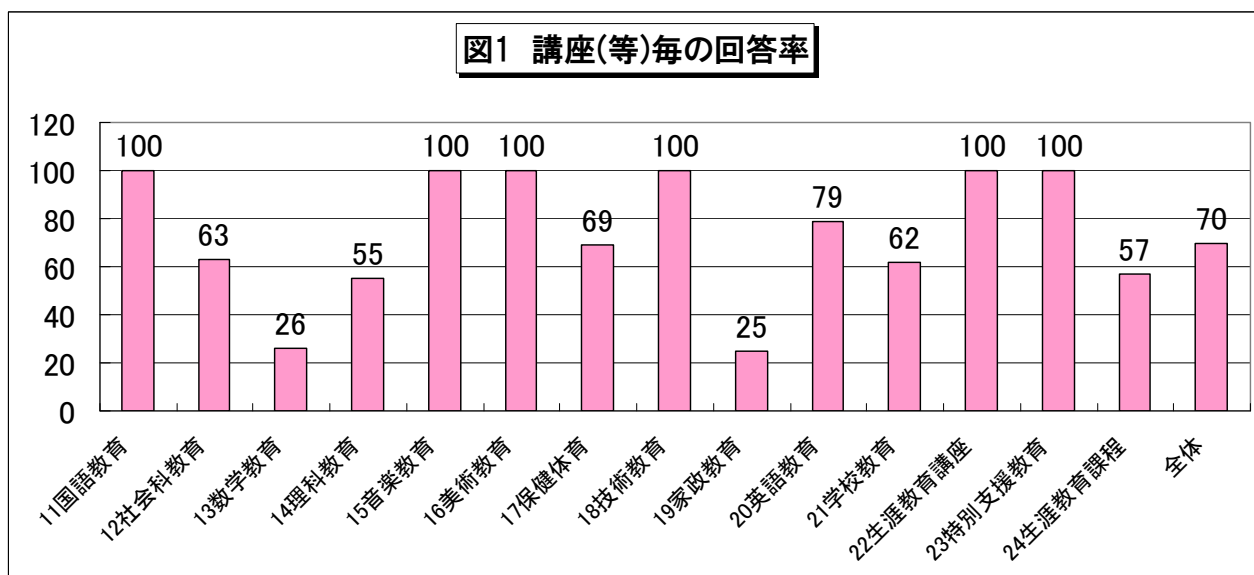
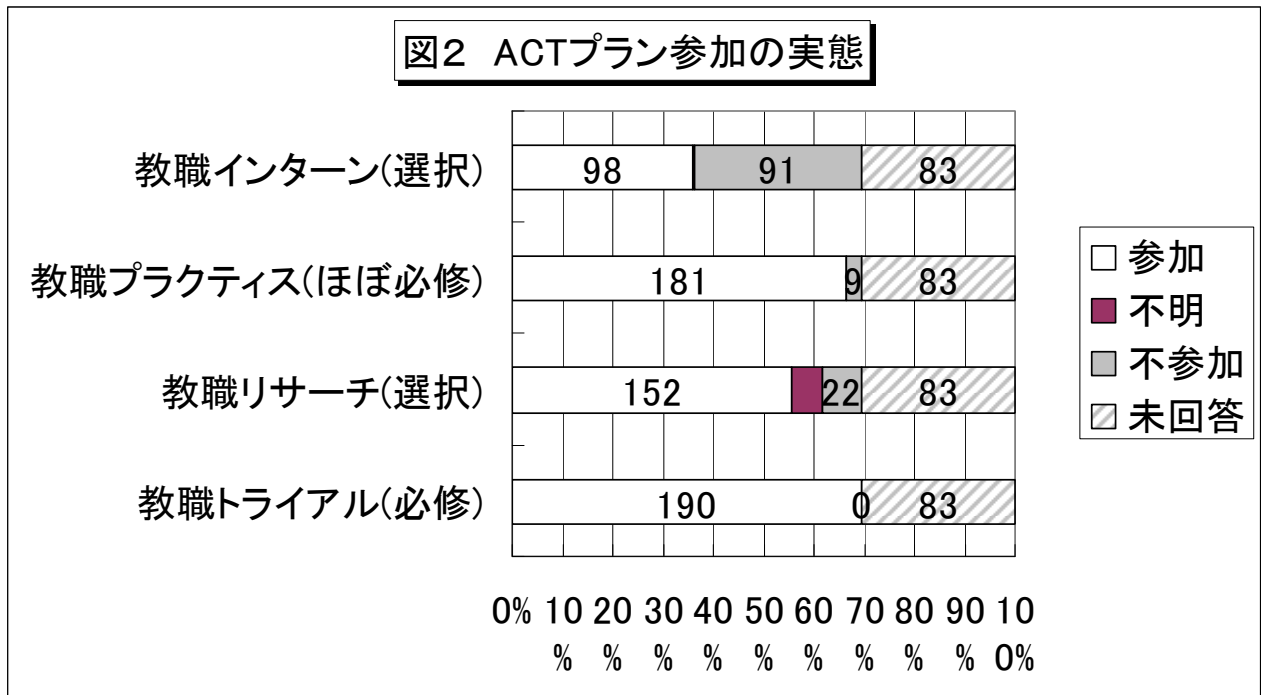
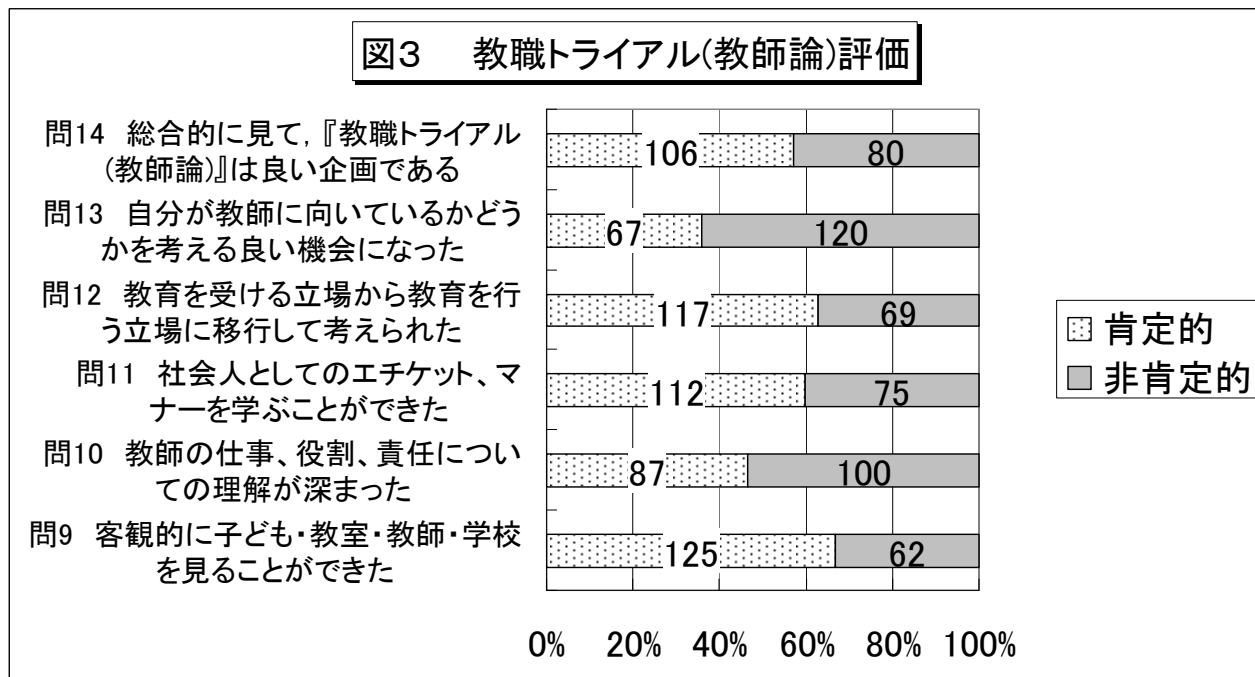


図2はACTプランに参加した学生の実態である。1年次に実施される教職トライアルは必修科目であるので、全ての学生が参加している。2年次に実施される教職インターンは完全に選択科目であり、教員志望意欲の強い学生が参加すると予想される。



第2節 教職トライアルの評価

図3に、『教職トライアル(教師論)』についての6項目にわたる評価結果を示した。各項目について「4 少し当てはまる」「5 非常に当てはまる」を肯定的評価としてまとめ、「1 全く当てはまらない」「2 あまり当てはまらない」「3 どちらともいえない」を否定的評価として集計した。



肯定的評価と否定的評価の二項検定を実施したところ、

「問9 客観的に子ども・教室・教師・学校を見ることができた」 $p < .01$

「問10 教師の仕事、役割、責任についての理解が深まった」 $p > .10$

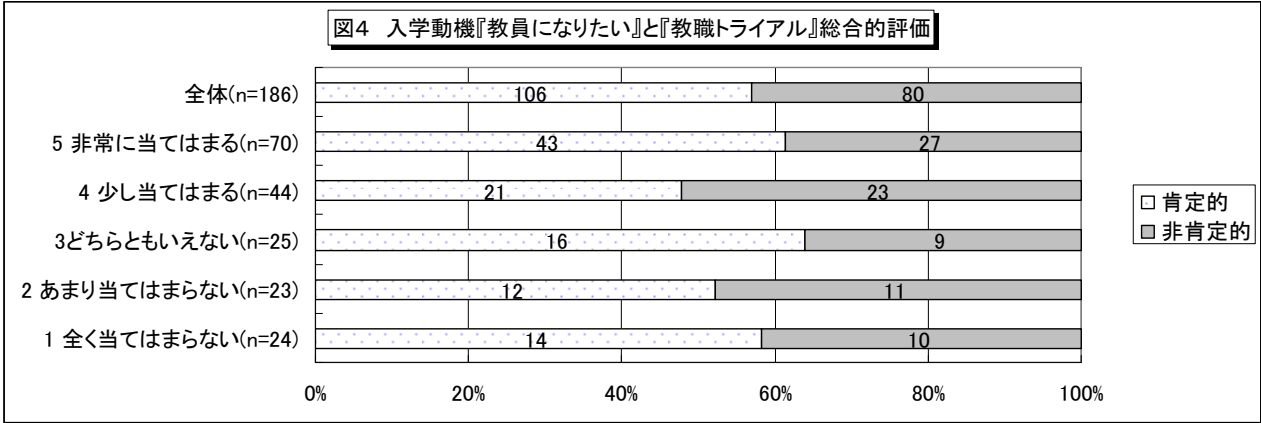
「問11 社会人としてのエチケット、マナーを学ぶことができた」 $p < .01$

「問12 教育を受ける立場から教育を行う立場に移行して考えられた」 $p < .01$

「問13 自分が教師に向いているかどうかを考える良い機会になった」 $p < .01$

「問14 総合的に見て、『教職トライアル(教師論)』は良い企画である」 $p > .10$

という値が得られた。すなわち、『教職トライアル(教師論)』体験を振り返った時、「客観的に子ども・教室・教師・学校を見ることができた」「社会人としてのエチケット、マナーを学ぶことができた」「教育を受ける立場から教育を行う立場に移行して考えられた」と好意的に評価していたが、「自分が教師に向いているかどうかを考える良い機会になった」とはなっていないと否定的に評価していた。最後の「総合的に見て、『教職トライアル(教師論)』は良い企画である」との質問も肯定的評価が多いとはいえない結果であった。



学生の教職希望とこれらの実習体験の評価とは関連が深いと思われる。そこで学生の入学動機と教職トライアルの総合評価と考えられる「総合的に見て、『教職トライアル(教師論)』は良い企画である」との関係を示したのが図4である。「教員になりたい」ために岐阜大学教育学部に入学したとの質問に「非常に当てはまる」と回答した下位群で肯定的評価が多いが統計的には有意ではなかった($p < .10$)。

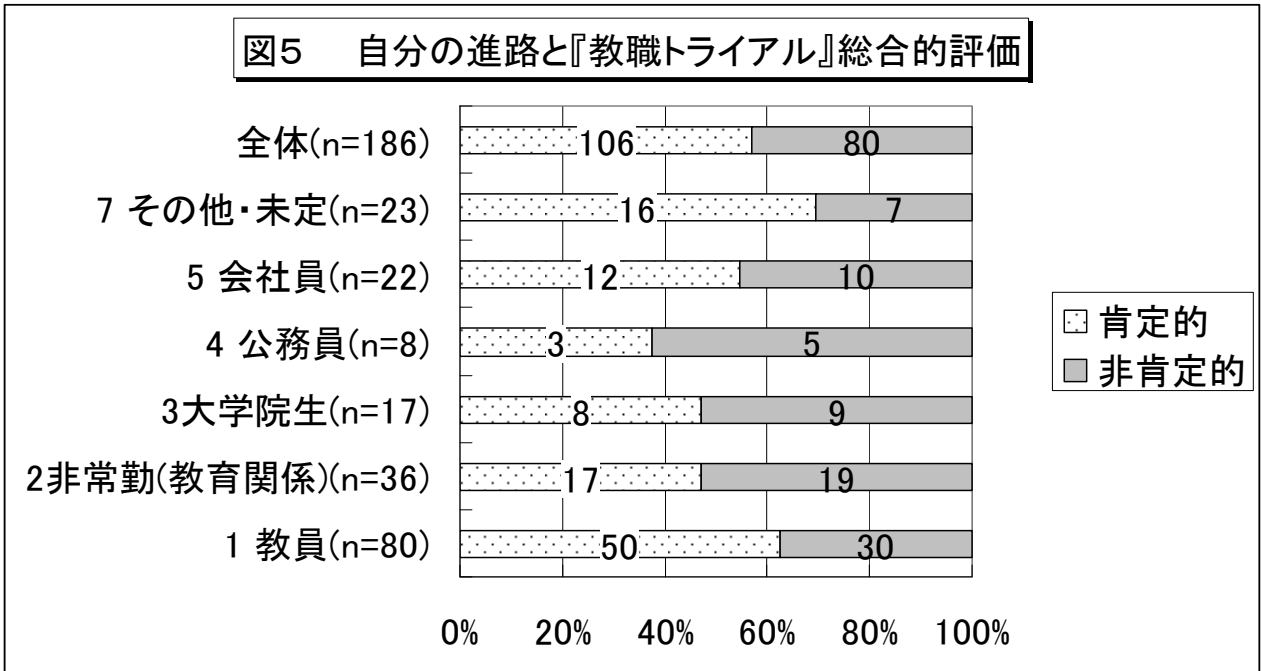


図5は、これからの自分の進路・職業と教職トライアルの総合評価と考えられる「総合的に見て、『教職トライアル(教師論)』は良い企画である」との関係を示した。常勤の教員として4月から教壇に立つ予定の群(n=80)では肯定的評価が有意に多い($p < .05$)。しかし未定群(n=23)、民間会社に就職内定群(n=22)では肯定的評価が多いが統計的には有意ではない。非常勤教員群と大学院生群はともに肯定率が50%を下回っていた。

結局、『教職トライアル(教師論)』については、常勤の教員として4月から教壇に立つ予定の群では肯定的評価が多いが、それ以外の下位集団では肯定的評価と非肯定的評価と混在していると要約できる。その原因を自由記述の中から探ってみる。

第3節 自由記述から見た教職トライアルの評価

まず非肯定的評価の中で、次の3つの意見は考えさせられる。意欲の欠如と関係している意見もあった。こちらの方が問題は大きいと思われる。意義を学生と討論することも必要である。

意見001「あまり意味を感じられなかった。」

意見002「あまり効果はなかった。」

意見003「ほとんど立って授業を見ているだけだった気がするので、もっと生徒と関わりたかった。」

次に「時間」についての不満がかなり見られた。これらの意見は教職トライアルが金曜日の午前中・早朝から始まり、午前中で終わり、午後12時50分からは3時間目の平常授業が始まるという強行スケジュールに由来している。附属学校が大学キャンパスから離れているという構造的問題も背景にある。改善が可能ならば検討すべき点であろう。事前指導の内容も検討すべきであろう。

意見004「午前中という短い時間であったため、あまり「これ」といった自分に身に付いたものがないかと思うし、すぐに児童生徒とわかれるということでさみしさもあった。現場と関わるには時間が短すぎると思う。」

意見005「先生と話す機会がもっとほしかった。始発電車にのっても、時間がギリギリで困った。」

意見006「もう少し、時間を増やして欲しかった」

意見007「期間がみじかすぎる気がする。と言ってもリサーチもあるのでせめて1日くらいの時間を確保すべきではないかと思う。」

意見008「時間が短い。」

意見009「授業をみているだけで、半日では時間が足りないように感じた。」

意見010「時間が短いこともあって十分には教師側の立場を理解することができなかった。子どももなかなか心を開いてくれたという実感をつかめなかった。(中学校)小学校では、どうやって子どもと関わっていくと喜ぶのかということがつかめた。」

意見011「現場にいる時間が少ない。もっと多くしたほうが良いと思う。」

意見012「はじめの年だったからか、現場の教師も理解していなかったため、スムーズではなく、見学時間も短いのが不満だった。」

意見013「バタバタとしたまま終わってしまったという感じがあった。久しぶりに学校の雰囲気を感じたと思うが参観日のようなまま過ぎてしまった。1日とか時間的にもう少しゆとりをもって子どもたちと関わりたかった。」

意見014「午前中に様子を見学するというだけではあまり何かを得ることができなかった。」

意見015「バタバタして終わり、どのように関わってよいかわからないまま、ただいろいろなことに慌てながら終わったように思う。」

意見016「時間が短くて、もっと見たい、という思いがあった。注意書きのまわりくどい書き方はやめてほしかった。(そのまま「スーツ」と書いてもらえればよかったのに、試されているような感じがして嫌だった。)」

意見017「短期間のため、どうすればいいか不明。やるなら事前指導 or 期間を考え直すべき。」

意見018「短い時間だったので、学べたようで学んでいなかった気がする。継続してみる方が、学びも大きかったのではないかと思う。」

意見019「あまりにも日数が少なすぎて、多くのものを学べなかった。(実習)現場を見て学ぶという

点では、良かったかも知れない。」

意見 020 「客観的に観察することはできたけれど、とても短い時間なので深いところまでは理解できないと思う。きっかけにはなる。」

意見 021 「短い時間でしか子どもや先生を見ることができないのが残念である。バスの増便をしてほしかった。」

意見 022 「短時間だったので、児童・生徒と関わる時間が少なかった。客観的に見る機会としては良かったと思うが、子どもと触れ合うことが好きで教員になりたいと思った人たちにとっては、もっと関わる時間が欲しかったと思う。」

意見 023 「現場に出る初めての活動なので、多くを学ぶが、一度に大勢で行くので、子どもと関わる時間が極端に少なかったように感じた。」

意見 024 「考えは理解できるし、とても良い機会だと思うのですが、教師論を行って、大人数で、小・中へ行って授業を1コマ半くらい見て、役には立たないと思います。」

意見 025 「1年前期では時期が早すぎると思う。学校教育における教師と子ども、学校のあり方について十分に学んだ上でなければ現場の先生や子どもたちにも迷惑になると思います。」

意見 026 「入学していきなりの現場で、何を見てよいか分からないまま行って、子どもと楽しく過ごしたという思い出しかない。どういうことに気をつけておくか、知識を得てから行けばもっとよいものになると思う。」

意見 027 「間隔もまばらで、半日だけの見学では特に何をしに行っているのか分からず、あまり意味がない。何を見れば良いのか、入学したばかりであり、不明であった。」

意見 028 「問14は4であるが、1年生ではどんな心がまえで臨んだらよいか少々戸惑った。」

意見 029 「子どもとかかわる機会が1年生からあり、良いことだと思うが、何をすれば良いのか、観察の視点がよく分からなかった。」

意見 030 「単なる見学会の様なイメージがある。それまでの多くの講義をどこに生かすべきかわからない。」

意見 031 「自分の視点が生徒のままで実習に行ってしまった。実習前の気持ちの切り替えを促すことが大切だろう。」

意見 032 「目的を履き違えている学生が多く見られました。事前指導を徹底すべきではないでしょうか。」

意見 033 「何をすれば良いのか、何をして良いのか、分からないまま、終わってしまった。」

意見 034 「教育実習の時のように、事前に詳しい活動内容の説明がなかったため、あまり意味があるとは思えなかった。また1日(実質半日)では活動時間として短いのではないのでしょうか。」

意見 035 「まだ、子どもたち、学校を見る視点があまりないため、ただ子どもと接し、授業を眺めていたように思う。」

意見 036 「急だったので何をしたらよいかわからなかった。」

意見 037 「1クラスあたりの学生数が多すぎた様に感じる。」

意見 038 「金曜日に行くと、土日に試合等入っている場合、金曜から移動する事もあるため休まなければならないとなったりする場合もあった。金曜は専門の授業が多くあり、また、移動など考えるとハードスケジュールであった。」

意見 039 「何がなんだかわからず参加していた。評価(成績)のつけ方が感想文だけでつけられたのには不満があった。」

意見 040 「数日のことで相手校に迷惑をかけてしまうことが心配。」

意見 041 「特別支援学級に2週間続けて入る学科があったけどそれはどうかと思った。附属以外でやってもいいと思う。」

意見 042 「更衣などの段取り(今はしっかりされているのかもしれませんが)をしっかりしてほしいと思います。」

意見 043 「経験がないままとびこんだので、自分と先生とを重ね合わせるのは難しかった。」

意見 044 「様々な制限が多く、自由に見てまわりたかった。」

意見 045 「大勢の学生が一度に教室に入ったため、子どもたちや先生方にご迷惑をおかけしたと思う。もう少し少人数でできないだろうか。」

意見 046 「小中学校へ行く際、バスに学生が大量に乗って市民の皆様に迷惑をかけたので、エチケット・マナーの点は評価が低いと思います。」

意見 047 「半日行くのが教員志望ではなかったのでめんどうだった。」

意見 048 「教師の姿よりも、子どもの姿に目がいってしまい、自分は教える立場だという自覚が少なかったように思う。」

意見 049 「問1 2(教育を受ける立場から行う立場への転換)に書かれていることについて、とても考えさせられました。ただ、教員志望ではなく、まだ1年生だったので動機づけはあまり高くありませんでした。」

意見 050 「教育現場には社会とのつながりが感じられない。自分が小・中学校へ通っていたときと変わっていない印象を受けた。」

意見 051 「附属小・中は一般的な学校とかなり異なっていると考えられる。教師・子どもたち共にレベルが高すぎ、初めて教育現場を経験する場として好ましくないように思う。」

実習に行く人数に関しても不満が出ていた。

意見 052 「学生が大勢での訪問のため、教室へ出入りするのにも困難であった。そのため、出入り口を学生がふさいでしまいマナーの悪さに注意を受けたと記憶しているが、大学側の配慮も、足りなかったと思う。」

意見 053 「大学入学してまもない時期に現場を知ることは重要であるがほとんど見学していただけだったのであまり充実していたとはいえない。もっと少人数で(大学生が)子どもと関わったり、現職の先生と関わったらよかった。」

意見 054 「いきなり教育現場に行って、右も左もよく分からないまま終わってしまったと思う。そこから4年間のことを考えれば、有意義ではあるかもしれないが、当時はすごく緊張した。」

意見 055 「一度遅刻したことがあり、それからは絶対遅刻しないようにしてきました。」

意見 056 「触れ合う時間(子ども)なども短かった為、正直学んだものは少なかったと思います。でも、実際の教育現場を間近で見れることは良かったと思います。」

意見 057 「2時間ぐらいのすごく短い時間だったので、一瞬で終わってしまったように思われます。1日中いてもいいのでは・・・と思います。しかし、トライアルはないよりは有る方が役立つと思います。」

意見 058 「教員になりたい人はもちろん、特に教員志望でなかった人には、学校現場の雰囲気を知る良い機会です。ただ、この短時間で教師について、子どもについて等を見極めるのは無理で、参加者が早合点をしてしまい、少し誤った理解、偏った見方をしてしまうこともあると思いま

す。」

意見 059 「半日ではなく一日の方が良かったと思います。」

事前指導をきちんとすべきとの意見も寄せられた。これらの意見に対しては、実施2年目からは改善している点も多いと思われる。検討すべき点も全てが改善したとは考えられない。今後の課題として残されている。

意見 060 「事前に注意すべき点をしっかりと知りたかったです。」

意見 061 「3年次での教職プラクティスを見据えての良い導入ではあると思う（いきなり学校現場へ行くよりは前の段階が必要なので。）。しかし、目的がはっきりしていなかったので何しに行っているかよく分からなかった。」

意見 062 「授業を参観する時の人数をもう少し減らしたほうが良いと思う。」

意見 063 「1年生の時は教師になるとか、ならないとか、何も考えてないのでとくにどうということは・・・なかった。」

意見 064 「客観的に見るだけだった。かわりは初めてだったので体当たりだったように思う。」

意見 065 「とりあえず附属小・中で授業を見たなという印象。」

意見 066 「有意義だったが、はじめのうちはどのくらい自分が介入してよいのかよくわからなかった。」

意見 067 「やらないよりはやった方が良いと思う。」

意見 068 「2日ずつしかなかったので、行う立場という意識はもてなかったが、子どもとかかわる機会をもてたことはよかった。」

意見 069 「教師になろうという意識がまだ低い1年生の時期なので、客観的に教師という仕事のよさ、悪さを見ることはできる。一方で、自分が教える立場で見られないため、不十分に終わってしまったと思う。」

意見 070 「まだ入学したばかりで、教職に対する知識や意欲がもちにくい人もいたので、意欲が出るような授業が良いと思う。」

意見 071 「短時間であり、数時間であったので、あまりよく分からない部分もあったけれど、“教師”についても一度考えるきっかけとなりよかった。」

意見 072 「午前中だけという短い時間の中で、子どもの姿を見るのはとても難しかったです。リサーチやプラクティスで、どんな所を見るのかといった視点深しにはなりました。」

「教師論」という授業科目は、教師としての自分の適性を考えるという授業の狙いがある。その意味で、次の意見などは考えさせられる。

意見 073 「1年生としてはいい経験であった。」

意見 074 「教師になりたくて入学した人にはとても良いが、なりたくない人の思いも考えるとよくわからない。」

意見 075 「実際に1年生で行っていた時にはよく分からなかったが、後から考えると学校という雰囲気慣れるためによかったと思う。」

意見 076 「教職の現場に行くことによって、どんな仕事をしているのか、実際にどう学級を進めていくのかが分かった。」

意見 077 「実際に学校に行く回数が少なすぎだと思う。そのため、あまり実感が持てなかった。」

次は好意的意見である。大学側の意図をきちんと理解していることが分かる。

意見 078 「教育現場がどのような所か、大学生の目から見れてよかったです。今後のやる気につながる。」

意見 079 「講義だけでなく、このような実践的な授業があってよかった。教職トライアルのおかげでさまざまな経験ができ、採用試験の際にも役に立った。」

意見 080 「早い段階で行けるのは教員を目指す学生にとってはいいと思いました。」

意見 081 「初めて、教える側という視点で考えることができるようになった。」

意見 082 「初めて教師として子どもたちと向かいあうよい機会で、具体的に教師になるための第一歩をふみだすことができた。」

意見 083 「教育現場を知る良い企画だと思う。」

意見 084 「まず子ども達とのかかわりの練習になったと思う。また、見学という立場がはっきりしていたのでわかりやすかった。」

意見 085 「早い時期から良い経験ができた。」

意見 086 「大学1年時から、現場をみることができたのは、時間や内容が薄かったとしても、とてもよい体験だった。」

意見 087 「実際の授業や子どもの姿が見れた。」

意見 088 「いろんな現場に早いうちから入って色々見たり感じる事ができたのは、私にとって本当に貴重な体験になったし、教師の重みがわかるものだった。」

意見 089 「1年生の時期から教育の現場をみれることは良いことだと思う。」

意見 090 「実習前に、教師の側の目線で授業を見ることができて良かった。」

意見 091 「一年生の時から子どもと関わってよかった。」

意見 092 「入学してすぐに現場に行けたので、教師としての自覚を持つことができた。」

意見 093 「教育を行う立場になるのだという自覚をもつことができた。」

意見 094 「はやいうちに現場にいけるのがよかった。」

意見 095 「今まで“児童生徒”としてしか見てこなかった学校を第三者の視点に立って見るのはじめての機会がいい経験になったと思う。」

意見 096 「良い経験になりました。」

意見 097 「1年のころから職業観をはっきりさせることができ、良いと思う。」

意見 098 「いきなりプラクティスに行くのではなく、事前にトライアルに参加したことで、教師という視点でみるよう意識でき、良い準備段階になった。」

意見 099 「入学してすぐに教育現場を「教える立場」から見ることで、4年間で自分が目指すものをはっきりとさせ、やる気の向上につながるのではないかと思う。非常によい、有意義な取り組みだと思う。」

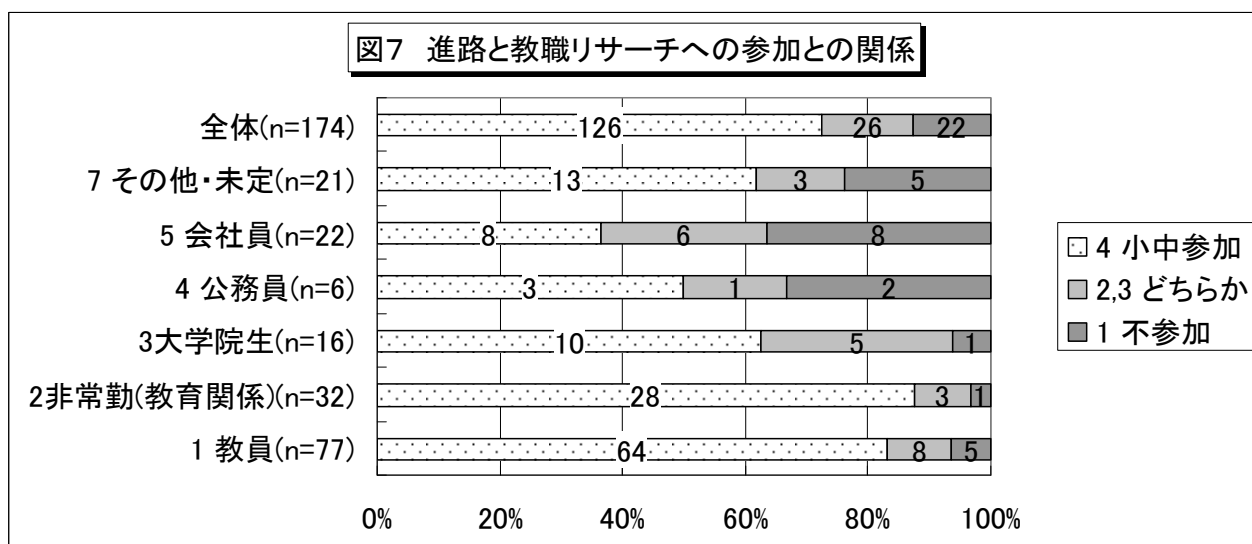
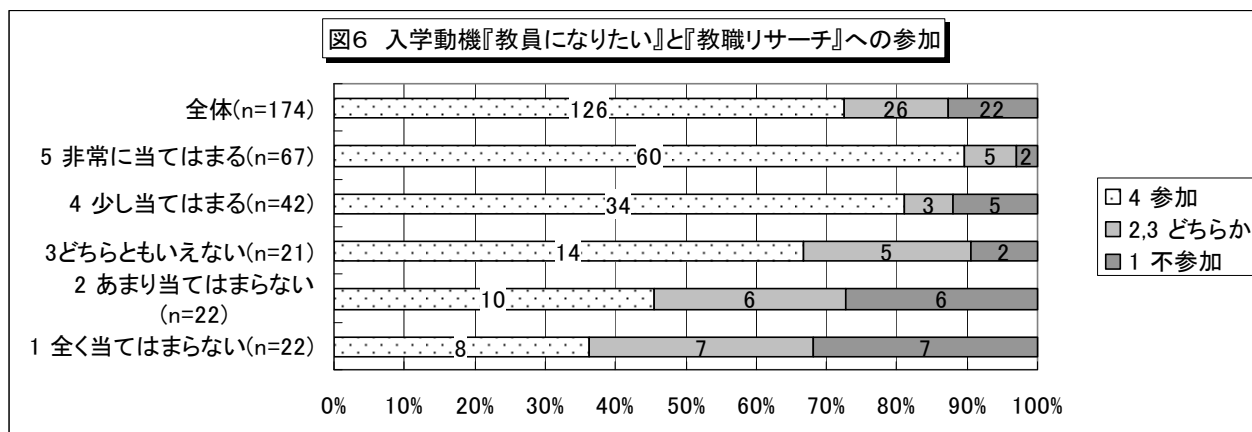
意見 100 「1年生のはじめから現場に出る機会があったのは良かったと思う。」

意見 101 「教育を受ける立場ではない見方で考えることができ、大学1年という時期も、4年間のあり方を見通すにはいいと思った。」

これらの肯定的意見には、大学側の趣旨をきちんと理解した学生の声もかなり含まれている。良い点を常に確認することは必要なことである。

第4節 教職リサーチの評価

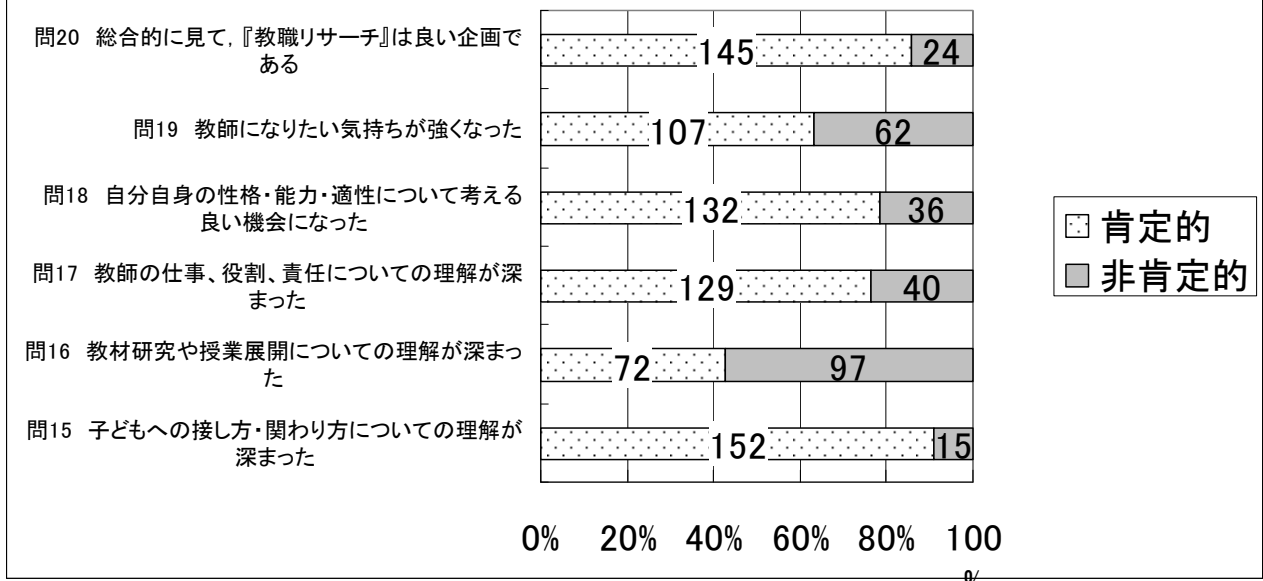
教職リサーチは「選択科目」と位置づけられていたので、まず参加の様相を検討した。図6は、入学時の教員志望と教職リサーチの選択との関係を示した。全体としては9割に近い学生が、小学校・中学校の教職リサーチに参加していた。そのなかでも明らかに、大学入学時に教員志望であった学生ほど教職リサーチに積極的に参加する傾向がみられた。



次に、これからの自分の進路・職業と教職リサーチへの参加との関係を図7に示した。ここでも常勤の教員・非常勤の教員で教壇に立つ予定の学生は教職リサーチに参加していた傾向がみられた。つまり教員志望の強い学生は選択科目である教職リサーチに参加していたのである。

図8に教職リサーチへの評価を示した。各項目について「4 少し当てはまる」「5 非常に当てはまる」を肯定的評価としてまとめ、「1 全く当てはまらない」「2 あまり当てはまらない」「3 どちらともいえない」を否定的評価として集計した。

図8 「教職リサーチ」への評価



肯定的評価と否定的評価の二項検定を実施したところ、次のような結果が得られた。

- 「問 15 子どもへの接し方・関わり方についての理解が深まった」 $p < .01$
- 「問 16 教材研究や授業展開についての理解が深まった」 $p < .10$
- 「問 17 教師の仕事、役割、責任についての理解が深まった」 $p < .01$
- 「問 18 自分自身の性格・能力・適性について考える良い機会になった」 $p < .01$
- 「問 19 教師になりたい気持ちが強くなった」 $p < .01$
- 「問 20 総合的に見て、『教職リサーチ』は良い企画である」 $p < .01$

つまりほとんどの項目で肯定的評価が否定的評価よりも有意に多かった。ただし有意ではなかったが、「教材研究や授業展開についての理解が深まった」には肯定的回答は4割強と少なかった。教職リサーチかなりの効果があったと判断される。

学生の入学動機と教職リサーチの総合評価と考えられる「総合的に見て、『教職リサーチ』は良い企画である」との関係を示したのが図9である。5つの下位集団において、肯定的評価が7割を超えていた。「教員になりたい」ために岐阜大学教育学部に入学したとの質問に「全くあてはまらない」と回答した下位群でも肯定的評価が多い傾向にある ($p < .10$)。この下位群以上に教員志望の4つの下位群は全て肯定的評価が多かった(すべて $p < .01$)。

図9 入学動機『教員になりたい』と『教職リサーチ』総合的評価

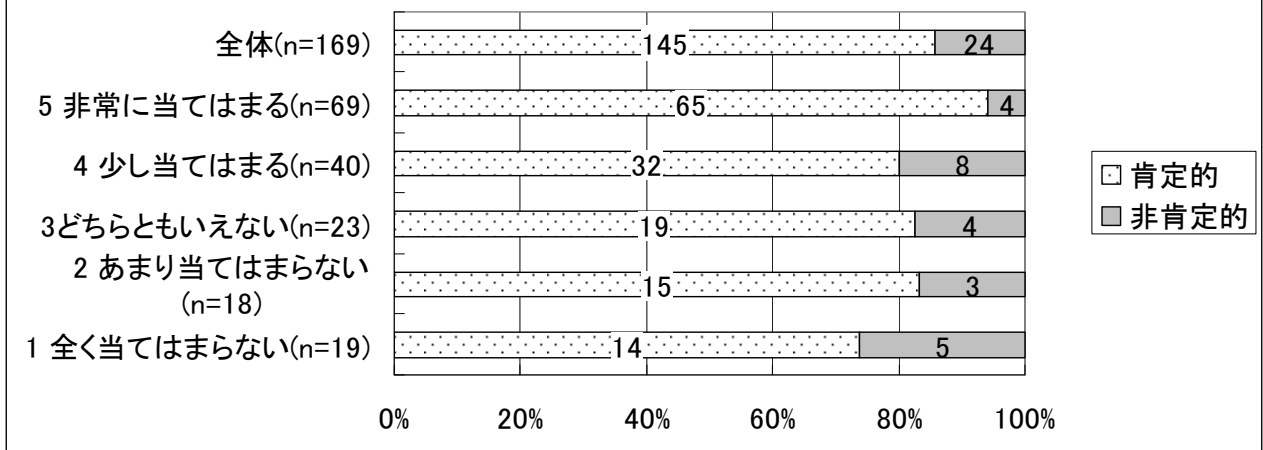


図10 自分の進路と『教職リサーチ』総合的評価

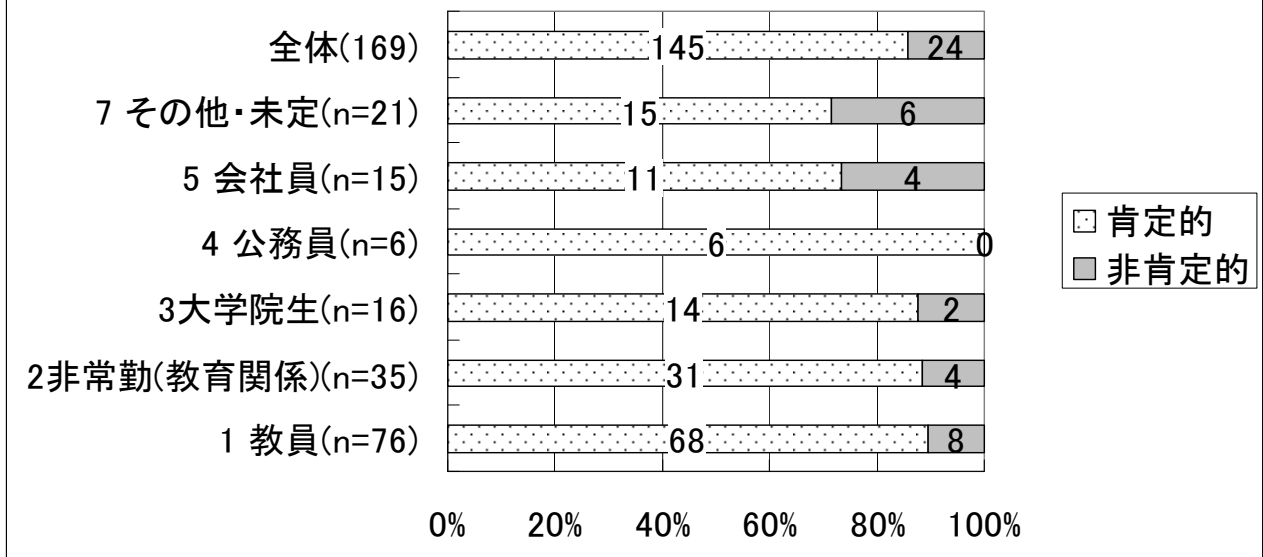


図10に、卒業後の自分の進路と教職リサーチの総合評価との関係を示した。6つの下位集団すべてにおいて、肯定的評価が7割を超えていた。常勤教員(p<.01), 非常勤教員(p<.01), 大学院生(p<.01), 公務員(p<.05)の下位集団においては有意に肯定的評価が多かった(p<.01)。その他・未定の群でも肯定的評価が多い傾向にあった(p<.10)。会社員群でも肯定的評価が多かったが、統計的には有意ではなかった。

以上から、『教職リサーチ』は良い企画であると学生から評価されているといえる。

第5節 自由記述から見た教職リサーチの評価

はじめに、教職リサーチの実施時期について不満があった。次に、大学側と受け入れ側の準備不足、連携不足に由来する問題が指摘された。実施初年度ということもあり、2年目以降は改善された点もあると思われる。

意見 201「夏休み以外に行ってほしかった。トライアルよりも学ぶことが多くあって良い。」

意見 202「リサーチ初年度だったため、大学側と小中学校側の連携がうまくとれてなかったように思います。そのしっぺ返しが学生に来ていたので、その辺は向上が望まれます。」

意見 203「大学の教授と相手校の先生の話し合いがあまりなされていなかったようで、学生がどのように子どもたちと接したらよいか明確でなく困った。」

意見 204「大学と中学との連携がとれておらず、理不尽な注意を多く受けました。私たちの立場がわからず、何をしてもよいか不明で困りました。」

意見 205「まず、学級と大学の連携が全くとれていなかった。さらに自分達が何をやる企画なのかが全く分からなかった。教育実習生ではないので生徒と深くかかわるべきなのか、それとも観察実習なのかが不明だった。また、何も指導されていない状態で行ったのもっと学校で生徒とのかかわりを把握しておいてほしい。さらに、実習校とはちがいきなり荒れていた学校だったので、『教師』になりたいと思わなくなった。」

意見 206「中途半端であった。受け入れてくださる学校と、大学側の意向の違いがあり、かなりとまどった。もっと、理解してもらうようにしてほしい。」

意見 207「学校によってやることも異なっていたように思う。初日、私たち自身も、どうしていいかわからなかった。」

意見 208「『先生』でも『生徒』でも『実習生』でもない立場で、どう関わっていけばいいのか、自分たちも、学校もわからないまま終わってしまった。」

意見 209「初めてのリサーチだったので、受け入れ先の学校もどうしていいか、試行錯誤しながらすすんでいった。小学校はきちんと対応してくれたが、中学校は不当な扱いをされることもあった。」

次の4つの意見は、教職リサーチの意義・位置づけについての疑問がなされている。これも上記の意見同様、大学側と受け入れ側の連携不足に由来する。受け入れ校の対応が明確でない点もあり、改善すべき点であろう。

意見 210「良い企画だと思いはしますが、ただの見学に失してトライアルとの違いがさして無い気がします。事前、事後の指導の強化を行った方が良いのではないのでしょうか。後々になって知識を得、3・4年生になってやっとリサーチで見聞きしたことの意味を知った、ということがありません。」

意見 211「1日中に学校にいたけど、何をすべきかよく分からなかった。具体的な課題とかがあった方がいいのでは？1人の子どもを1日中観察してレポートするなど・・・」

意見 212「1週間という期間に、生徒とどう関わればいいのか分からなかった。観察なのか見学なのか、目的があまり分からない。」

意見 213「1週間ということでトライアルよりは内容が濃くなった。しかし学生でもなく、教師でも

ないという立場は変わらないため、何をやってよいのか、悩んだ覚えがあります。」

意見 214 「入った学校によって対応が様々。」

意見 215 「中学校では授業中に後ろの自分の席から立つなと言われたので、生徒の様子を見ることができなかった。」

意見 216 「学生の思い出づくりに終わらない配慮を！」

意見 217 「実習へ行った中学校で、「教室の後ろで動かずに授業を見てほしい」と言われ、生徒の様子をあまり見ることができなかった。」

次の5つの意見は、教職リサーチの内容・構成についての不満である。ある意味では要求水準が高いとも思われるが、今後検討すべき課題でもある。

意見 218 「先生方がとても忙しいようで、なかなか話す時間がなかった。現場を知るためにも、もっと話がしたかった。体育祭前だったため、力仕事などに使われてばかりだった。手伝うためだけに来ているのではないのに・・・と感じた。」

意見 219 「授業の計画から、確認まで、もっと一括してみたかった。」

意見 220 「もう少し何らかの形で授業参加できると良いのでは。」

意見 221 「授業を見るというだけでは分からない部分もあったので、授業を少しでもできるようにしてほしいと思った。ただ、もしやっていたらどうなっていたかは少し分からない。」

意見 222 「中学校では授業を見ることが全くできず、残念でした。心理だから、非行の子ども達と関わって、と言われ、それも大切なことですが悔いが残りました。」

意見 223 「小・中と2週間だったので、切り替えが難しかった。講座でかたまっていたので、やりやすかったが、刺激があまりなかった。」

好意的意見が多かったが、まず派遣先が実習生を毎年受け入れている学校ではなく、いままではあまり実習生を毎年受け入れてこなかった「一般の学校」であることを評価していた。

意見 224 「実習校とはちがった雰囲気であり、リアルに学校というものの感覚をつかむことができた。」

意見 225 「附属以外の学校に行けた事がよかった。教育実習校などでは、自由な見方で取り組めなかった。」

意見 226 「自分はA中、B小に行ったので、一般的な学校の現場の空気を良く感じられた。実習校へ行っていない大学生にとっては、リサーチはとても良い経験になったと思われる。」

意見 227 「プレ教育実習として役割が大きかったように思う。実習校以外の学校に行かしてもらうことで、本当の今の教育現場を見れたと今、振りかえるとそう思う。」

次の意見は、教職リサーチが「教育実習」の事前準備になっていて、スムーズに教育実習に入れたという好意的評価である。

意見 228 「次の年の実習へ行く時、リサーチをやって慣れておいてよかったと思った。」

意見 229 「教育実習の前に様子がわかってよかった。」

意見 230 「この企画があったことにより、3年生の実習のイメージがわいたので、とても良いと思う。」

意見 231 「とてもためになりました。本当の意味でのプレ実習という感じでした。」

意見 232 「教育実習の前段階としてとてもイミのある企画だと思いました！！！」

意見 233 「観察型の実習であったが、1時間だけ授業をさせていただいて勉強になったし、3年次のプラクティスの不安が少しとれた。(小学校)」

次の意見は、教職トライヤルと比較して教職リサーチは1週間という長さが適切であるという好意的意見である。

意見 234 「1週間でちょうどよかった。3年の教育実習のステップになった。」

意見 235 「1週間あったので、かなり勉強になった。ただ、ずっと教室にいるのであまり先生の仕事は分からなかった。」

意見 236 「1週間継続的に学校や先生、子どもたちと接することができたので、日々の変化などにも気づきやすかった。」

意見 237 「学校の生活を一週間通してみることができたので勉強になった。」

意見 238 「1週間ずつの参加だったので、トライアルよりはとてもいい勉強になったと思います。実際に授業をしてみてもいい機会だと思いました。」

意見 239 「1週間、続けて子どもと接することで教師としての立場になって物事を考えたり、助言したりでき、子どもと接する楽しさややりがいを強く実感できた。」

意見 240 「1週間、同じ教室に行き、同じ児童生徒と関わり、子どもたちの様々な表情や性格など多くのことを見ることができ、とても良い体験になった。子どもとの関わり方について、とても勉強になった。」

意見 241 「5日間、ある程度の期間があるため、得るものは多いです。教育実習と違い、授業は行わないため、児童生徒とかかわり、理解することのみに全力を注げる、もしかすると人生で最後の機会になるかと思います。とても貴重な5日間です。」

意見 242 「教材研究よりも、教材研究がない分、子どもとの関わりに重点的に力を入れることができた。やはり、まとまった期間行くことは、必要だと思う。」

意見 243 「一週間なので1日1日をとても大切にでき、具体的な目標も立てやすかった。」

意見 244 「5日間の中でも子どもとの人間関係も作れるし、色々なことが学べました。授業はT・Tのような形で入ることができて先生として学校に関わるということがどういうことなのかを感じました。」

意見 245 「1日ずっとではなく1週間まとめた実習をプラクティスの前にできたことは良かったと思う。」

意見 246 「1週間あるので子どもとの関わりをかなり学ぶことができた。この時の経験が実習最初の1週間にそのまま生かせ、非常によかった。」

意見 247 「子どもと5日間生活して、学ぶことがたくさんあった。」

意見 248 「集中して2週間、朝から夕方まで体験できたのは、良かったと思う。」

意見 249 「ある程度連続した期間(この場合5日間)で参加できたため、学ぶことも多くあった。1人1クラス配属であったため、担任の先生や児童とも近い距離で関わりを持つことができたので楽しい記憶が残っている。」

意見 250 「一週間という期間がとてもよかった。もしできるなら2週間にしてみてもよいと思う。」

次の意見は、理由も詳細には指摘しないで、「楽しかった」という感情が表に出ている意見である。

意見 251 「短い期間でしたが、楽しかったです。もっと積極的に関わっていければよかったと思って

います。」

意見 252 「子どもにより近づけて、楽しくすごせた。」

意見 253 「たった1週間だけれど、すごく心に残る経験でした。」

意見 254 「楽しかった。一番思い出に残っていて、一番泣けた。」

意見 255 「楽しかった。一番教師という職業を身近に感じた。」

意見 256 「楽しかった。」

意見 257 「子どもになれることはできた。楽しかったが、教材や授業研究にまでは、至らなかった。」

意見 258 「良い経験になりました。」

意見 259 「2年生としていい経験であった。」

意見 260 「授業をさせてもらったり、教師としての仕事の内容が理解できて良かった。」

意見 261 「1年生で行われるリサーチよりも、とても良かった。」

意見 262 「5日間だけではあったが、学ぶことが多く充実していた。」

次は、児童生徒との関わりが持てたことを好意的に評価している意見である。

意見 263 「自分で授業をするわけではないが、生徒との関わりが多くあったのでよかったと思う。」

意見 264 「短い期間だったが、1人の子どもについてよく見ることができたのでよかった。」

意見 265 「トライアル以上に子どもとじっくりかかわれたので良かったです。」

意見 266 「少し地方の学校に行き、素朴な子どもたちに会い接することができて、子どもの良さをたくさんみつけることができ、子どもが好きになれた。」

意見 267 「教育実習の前に、一定期間子どもと接することができるのは、子どもとの接し方などがわかって、実習に生かすことができると思う。」

意見 268 「子どもと深く関わることができてよかった。」

意見 269 「実際子どもたちと関わることができ、接し方を考えることができた。」

意見 270 「1日中子どもたちと接することで、1日の子どもたちの様子や、少しだけではあるけれど内面を知ることができて、子どもたちのことをよく考えることができた気がする。」

意見 271 「クラスに入って、子どもたちとふれあい、先生の姿をじっさいに観察させていただくことは、非常に勉強になった。」

意見 272 「子どもたちとたくさんふれあえ、教師をすることの楽しさを感じあえるものになった。」

意見 273 「授業をまだしなくてもよかったので、思う存分子どもと関わられた。3年生での実習に向けて、学校の雰囲気がつかめてよかった。」

意見 274 「トライアルよりも教育を身近に感じることができた。」

意見 275 「学校現場に慣れることができた。」

意見 276 「生徒の反応などを見られたことが良かったです。」

意見 277 「教職トライアルと違って、実際に子どもたちと1:30で触れ合えたので、終わった時、達成感があった。問16の質問(教材研究や授業展開についての理解が深まった)は1にしたが、リサーチは子どもたちと触れ合う方法を模索するのみに終始してもよいと思う。」

意見 278 「子どもが好きになった。」

意見 279 「1日中学校にいて、子どもを理解する力がつけられていいと思う。」

次の意見は、教職リサーチの構成内容、それから小学校と中学校と連続して設定したことにより、小学校と中学校の違い、発達のな気づきを好意的に評価する意見であった。

意見 280「授業を行うこともでき、とても有意義だった。」

意見 281「小と中の違いをみることができた。」

意見 282「中学生と小学生への接し方の違いを学ぶいい機会となった。教師の仕事というより、児童・生徒理解につながった。」

意見 283「トライアルと違って、1学級に1週間いることができたので、子どもの姿がよく観察できました。先生方と話す時間もあり、非常にいい経験になりました。」

次の意見は、指導を受けた現職教師から多くのことを学ぶことができたという好意的意見、さらに教員への意欲についての記述である。

意見 284「トライアルと比べ、教師という視点で子どもたちと接することができるようになったし、これまでは生徒の視点であったのが、完全に教師の役割を意識し、責任が強くなった。」

意見 285「A小で、1度だけ授業させていただいた。自分の力のなさを知ることができ、教育実習に反省を活かすことができた。できることなら多くの学校で授業させていただけると、他の学生の成長にもつながると思う。」

意見 286「教師という仕事を意識するきっかけとなった。」

意見 287「授業をすることはなかったが、教師という立場についてとても考えさせられた、3年生のプラクティスのためにも、とても良い企画だと思う。」

意見 288「リサーチは良い経験となった。先生方との交流の場を持てたことが良かった。」

意見 289「教師について理解が深まった。」

意見 290「小学校の方は先生方もあたたかくむかえて下さって遠くてもがんばる気になったが、中学校の方は先生方がいそがしすぎて、何となく申し訳なかった。」

意見 291「リサーチ先の先生に大変よくしていただき、教師という仕事に対する理解や子どもへの接し方に対する理解が深まった。」

意見 292「とてもよい先生に巡り会うことができ本当に良かったと思う。」

意見 293「良い勉強になりましたが、教師になりたい気持ちが強くなるかというとは私にはありませんでした。」

意見 294「はじめて教師っていい仕事だと思えた。」

意見 295「小学校で、低学年ということもあってか、たくさん子どもたちが集まってきてくれた。そしてとても良い体験ができたと思っている。教師になりたいと強く感じることができた。」

意見 296「ほんとうにもう一度、教師になりたいという気持ちが深まった。」

意見 297「一日中子どもたちと共に過ごす初めての体験で、とてもたのしく充実した1週間をすごせた。教師になりたいきもちがものすごく強くなった。」

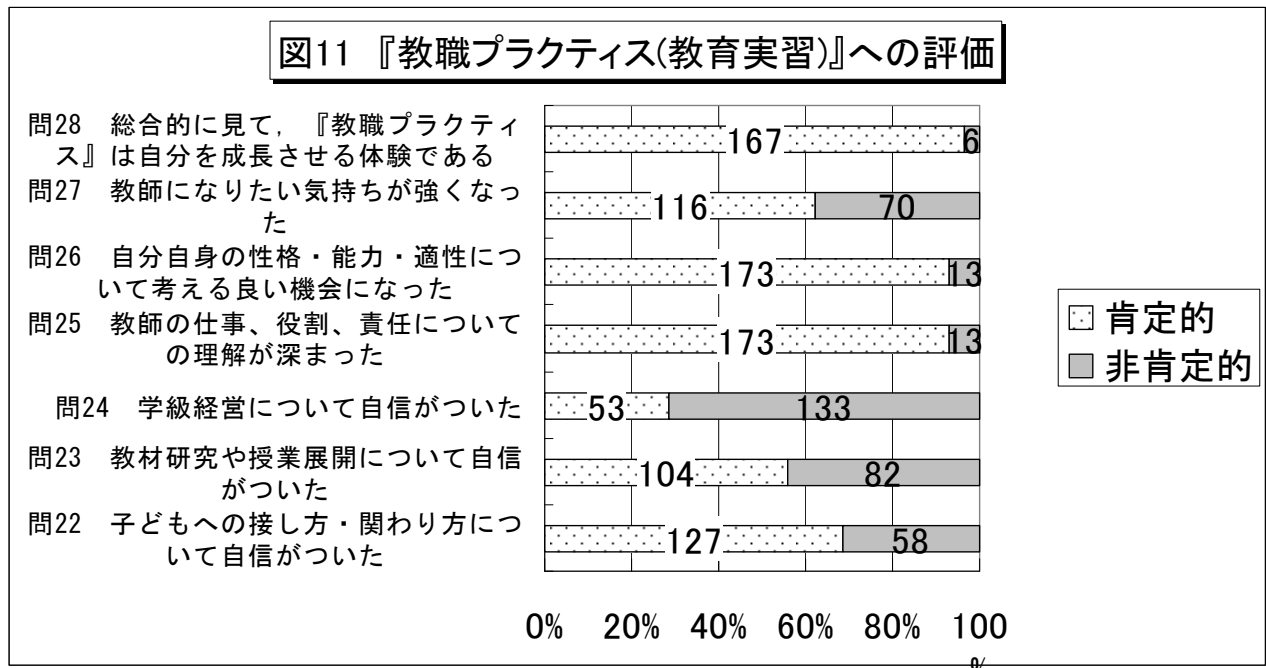
意見 298「とても充実していたし、子どもたちとの関わりがとても印象的である。とても良い思い出で教師になりたいという思いが確実に強まった。」

意見 299「短い期間だけど、自分を見直すいい機会になったと思います。」

以上の各種の意見から、改善点と評価すべき点が見出せた。教職リサーチという機会を得て、「教える立場」から子どもや学級、学校、教員を考える機会となったと思われる。

第6節 教職プラクティスの評価

次に、『教職プラクティス(教育実習)』の評価結果を図11に示した。教職プラクティスは教員免許を取得する上で必修の課目であるので、ほとんどの学生が履修している。7つの質問項目について「4 少し当てはまる」「5 非常に当てはまる」を肯定的評価としてまとめ、「1 全く当てはまらない」「2 あまり当てはまらない」「3 どちらともいえない」を否定的評価として集計した。



肯定的評価と否定的評価の二項検定を実施したところ、

「問22 子どもへの接し方・関わり方について自信がついた」 $p < .01$

「問23 教材研究や授業展開について自信がついた」 $p > .10$

「問24 学級経営について自信がついた」 $p < .01$

「問25 教師の仕事、役割、責任についての理解が深まった」 $p < .01$

「問26 自分自身の性格・能力・適性について考える良い機会になった」 $p < .01$

「問27 教師になりたい気持ちが強くなった」 $p < .01$

「問28 総合的に見て、『教職プラクティス』は自分を成長させる体験である」 $p < .01$

と6項目において好意的評価がなされた。特に、「教師の仕事、役割、責任についての理解が深まった」「自分自身の性格・能力・適性について考える良い機会になった」「総合的に見て、『教職プラクティス』は自分を成長させる体験である」の3項目は9割以上の学生が肯定していた。ただ「問24 学級経営について自信がついた」では否定的回答が有意に多かった。学級経営への自信までの効果は期待できないと考えられる。

教職プラクティス(教育実習)は必修に近い授業科目であったため総合評価を質問していない。そこで「問27 教師になりたい気持ちが強くなった」を総合評価項目と考え、入学動機・進路との関係を分析した。

図12 入学動機『教員になりたい』と『教職プラクティス(教育実習)』総合的評価

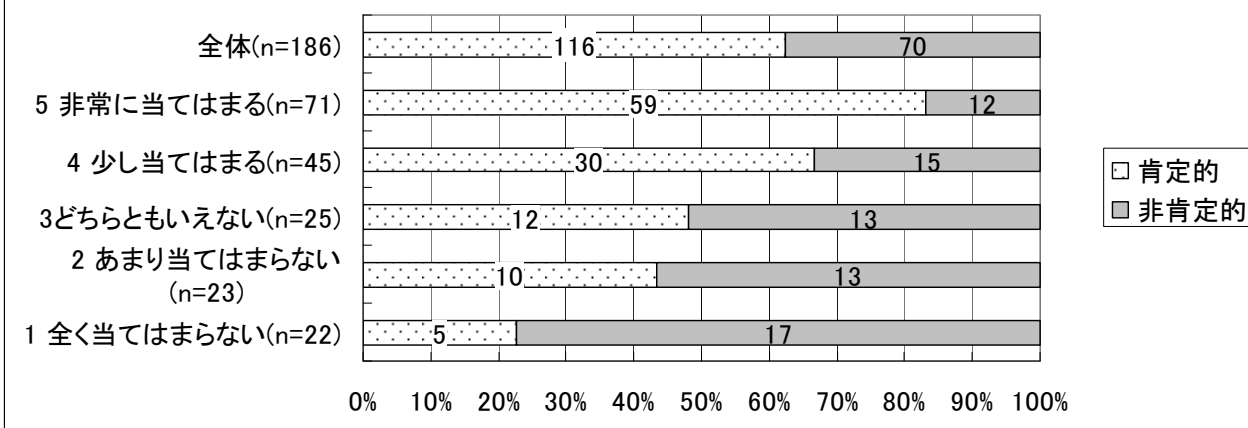


図12に、岐阜大学教育学部入学時の教員志望と教職プラクティスの総合評価との関係を示した。入学時に教員志望であった「4 少し当てはまる」「5 非常に当てはまる」の2つの下位集団においては、「教師になりたい気持ちが強くなった」と肯定的評価が有意に多かった($p < .05$ と $p < .001$)。しかし入学時に全く教員志望でなかった学生は有意に非肯定的回答が多かった($p < .05$)。

図13 自分の進路と『教職プラクティス』総合評価

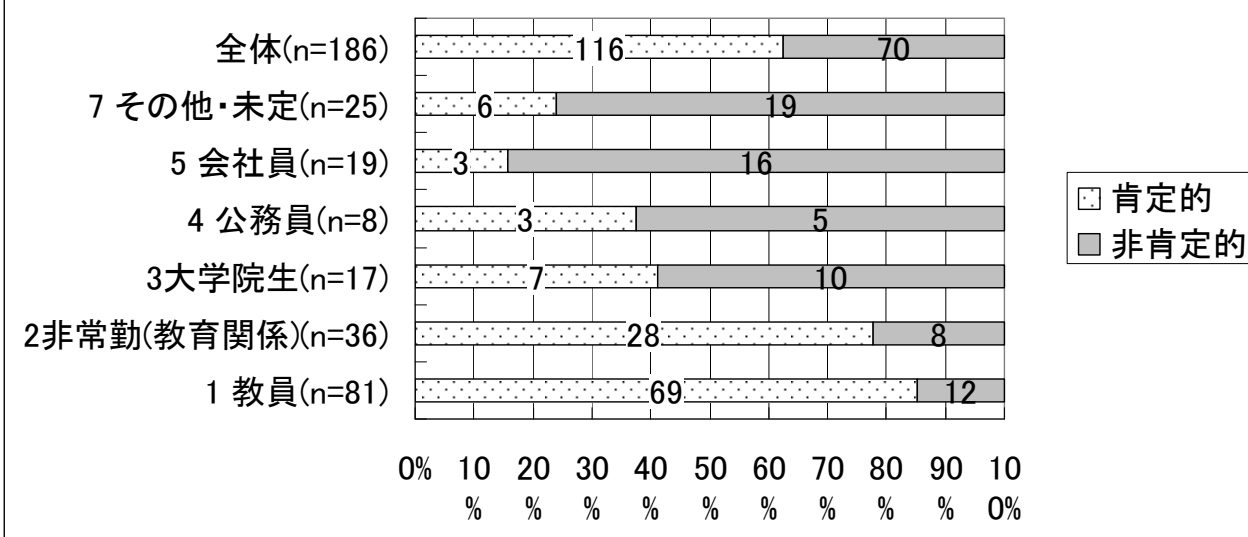


図13に、卒業後の自分の進路と教職プラクティスの総合評価との関係を示した。常勤、非常勤の教員になる予定の群では有意に「教師になりたい気持ちが強くなった」と肯定的評価が有意に多かった(いずれも $p < .01$)。しかし民間会社に就職予定の学生、進路先が未定の学生は肯定的回答が有意に少なかった(それぞれ $p < .01$ と $p < .05$)。

以上から、『教職プラクティス』は参加者全体としては「教師になりたい気持ちが強くなった」と肯定的評価がされているが、実際は入学時の教員志望動機がはっきりしている者がそのように回答している場合が多く、入学時の教員志望動機が弱い者は非肯定的回答をする場合が多かった。

第7節 自由記述から見た教職プラクティスの評価

まず次の5つの意見は教育実習や教師の仕事の大変さを述べている。実習校の先生が熱心に指導されることも背景にあり、どのような対応をすべきか、以前からの課題が残っている側面である。

意見 301 「大変というのが良く分かった。」

意見 302 「教師の大変さを知った。」

意見 303 「寝る時間がない。最終バスに間に合わない時間まで残されるのに、どうやって自動車以外で帰るのか。」

意見 304 「つらい、というのが前面にきた。楽しかったけれど、それ以上に大変だった。」

意見 305 「理解・発見・感動をたくさんすることができた。いそがしさで不健康になってしまった。」

続いて、教育実習のシステムについての課題を指摘している意見が見られた。これらの点は改善が可能であれば対応が必要であろう。

意見 306 「4週間という長い間、現場で授業させて頂き、教育についても、自分自身についてもじっくり考えさせられる経験でした。もう少し、実習に行ける学校を増やしていただけたら、もっと良いのではないかと思います。」

意見 307 「実習校が遠く苦勞することもあったので、提携校の増設や、自宅に出来る限り近い学校(母校でなくてよいので)できるようにしていただきたいかった。」

事前指導の内容についての傾聴すべき意見が見られた。大学での授業内容も考える必要がある意見である。

意見 308 「附属小・中に学生がかたまりすぎだと思う。指導案を書くことをもっと事前から教えてほしかった。」

意見 309 「事前指導で指導案や全日経営についてもっと実践的なことを学びたかった。」

意見 310 「事前指導、事後指導はあまり役に立たなかったように思う。」

意見 311 「実習に行ってから、指導案の書き方が大学で習っていたのと違ったりしてとまどった。そういう作業的なことはもっとはやく知っておいて本当に教材つくりとかに時間をかけたかったので早めに教えてほしい。」

意見 312 「今までの学習を否定するような体験だった。机上と実践は異なることを思い知らされた。」

意見 313 「実践的な勉強ができたのでよかった。もう少し早く、指導案の書き方などを教えてもらえるとよかった。」

意見 314 「とても充実した実習ができた。実習へ行く前に指導案の書き方について教えてほしかった。」

次の意見は実習校での指導体制への要望・不満が述べられていた。実習校と協議する内容も含まれているので、課題として残されたと思われる。

意見 315 「先生が校内の研究授業者だと、話をする時間がないので困った。」

意見 316 「小学校実習で特支を担当することになり、知識も何もないのにいきなり1ヶ月でとまどうことが多かった、通常学級も体験したかった。」

意見 317「大変だったけど良い体験になった。段階をふんだ指導にしてほしい。最初は、先生の指導案で、次は自分の指導案でなど・・・。」

意見 318「実習帳を書くのが大変。その時間を子どもとの時間や教材作りにつかいたい。」

意見 319「1ヶ月間、大変でしたがとても充実していました。実習ノートを書く時間がいったためにあの半分でよかったのではないかと感じました。」

次からの意見は好意的内容である。

意見 320「振り返ってみると、緊張・不安・大変だったこともたくさんあったが、それ以上に充実感。学ぶことが多くあった。授業をするということ、子どもとの関わり、学級経営・・・すべて経験をとおして考えを深めることができた。」

意見 321「大学生活の中で最も充実した時間であった。」

意見 322「すごく勉強になった。」

意見 323「すごくいい勉強になりました。」

意見 324「子どものかかわりや、授業について、学べたことが多くあって、本当によかった。」

意見 325「とても勉強になった。」

意見 326「とてもよい経験となった。」

意見 327「たのしかった。大変だったけどまた行きたい。」

意見 328「行って良かったと思う。」

意見 329「本当に良い経験ができた。」

意見 330「終わってみると、ものすごく貴重な体験です。」

意見 331「本当に学ぶことが多く、充実した期間でした。自分自身を考えるととてもいい機会になりました。」

意見 332「教師という仕事が非常に分ると同時に、その難しさや不安もあった。けれども3年生という時期はとてもいいと思います。」

意見 333「自分とむきあうことができたし、先生や子どもなどすばらしい人と接することができて本当に成長させてもらえたと感動している。」

意見 334「とても楽しく、自分が成長できるいい経験でした。教師にならないとしても、生かしている貴重な体験だと思います。」

意見 335「本格的に教師とは何かを意識することができた。」

意見 336「教師としての心構えや社会人としてのマナーをたたきこまれて、とても良い経験になったと思う。」

意見 337「人生の中でいい経験であった。」

意見 338「これは、つらかったが、せつかくやるなら、充実させようと思い、そして得るものはとても大きかった。」

意見 339「つらいけど、一生の思い出になるので、行ってよかったと心から思う。」

意見 340「いろいろな側面を見れてよかったです。」

意見 341「いろんな意識が変わってよかった。」

意見 342「すごくいい経験ができて、もう一度実習をしたくなるぐらい楽しくさせてもらいました。」

意見 343「大変ためになりました。教師の仕事はもちろん、その内容、子どもとの触れ合い方、勉強になることばかりです。トライアル、リサーチにもこれくらいのボリュームがあっても。」

意見 344 「教師にならないつもりの人には1ヶ月大変かもしれないが、やはり終わってみると、貴重な体験をさせてもらえてよかった。」

意見 345 「これは文句なしで、良い機会だと思う。」

意見 346 「教育現場の実際と、先生方の様子が1ヶ月間という長いスパンで見ることができたことがよかった。」

意見 347 「学ぶことが大きかった。1つのクラスをじっくりみるよい機会だったが他の学年の様子も知りたかったし、学びたかった。」

意見 348 「実習というだけでなくとてもよい経験となりました。」

意見 349 「子どもとの関わりだけでなく、自分で授業を7回ずつやらせてもらい、とても忙しかったがすごく勉強になった。」

意見 350 「実践により、今までより理解が深まった。」

意見 351 「貴重な経験だった。」

意見 352 「大学生活の中で最も貴重な体験となった。」

意見 353 「教師という立場で子どもに関われたことが自分にとって良い経験になった。教師になりたいと思っていなかったけれど、社会人として大切なことも多く学べたし、教師というものへの理解が深まったのでよかった。」

意見 354 「子どもと接して楽しいだけでなく、教師としての仕事、そして大変さ、また子どもへの叱り方など幅広くみることができた。」

意見 355 「時間をかけて接することが、子どもたちとの良い関係につながりました。」

意見 356 「教職について真剣に考える良い機会になった。」

意見 357 「実際に、授業をさせていただいたり、4週間、子ども達とすごし、教えるということについて、より深く考えるよい機会になりました。」

意見 358 「1ヶ月間、慣れないことばかりで大変だと感じたのと同時に、やりがいを覚えたり、もっと子どもと関わっているんなことを知りたいと思う、いい実習になり、教採にむけてよりがんばる力をもらえた。」

意見 359 「教師の大変さとともに、授業を行う楽しさや、子どもの成長をみるうれしさを実感することができてよかったです。」

意見 360 「辛いことも多かったが、非常に勉強になった。教師間の連携など、現場でしか学べない多くのことを学ぶことができた。」

意見 361 「実際に授業をしてみて、自分の足りない部分などもみつきり、とてもいい経験になったと思います。」

次の意見は、実習校で指導された担当教員への評価である。人格的な影響を受けたことが述べられている。

意見 362 「担当の学校や教員によって得られるものは大きく変化する。」

意見 363 「トライアル、リサーチを充実したものにすれば、事前実習はいらないと思う。一般校と実習校の違いが大きいと思った。けれど、実習校は、とても勉強になる。」

意見 364 「本当にいい指導教官にめぐり会うことができました。自分の目指す姿などが見つかりました。」

意見 365 「1ヶ月間で担任の先生の仕事を総合的に見ることができ、教職のよさが分かった。」

意見 366 「実習校へ行き、自分なんかはとても手の届かないような先生ばかりで、全てのことが学ぶことだった。理想の教師像も見つけられた。」

意見 367 「すばらしい先生がたくさんおり、とても勉強になった。大学で学んだことをいかそう！！
と思って実習に出たが、なかなかいかせることがなかった。今まで学んできたことは何だったの
だろうと感じた。」

意見 368 「問 2 2 について、子どもへの接し方等は、より考えが深まったが自信がついたとは言い難
い。経験知の差が担当教員と大きいことを感じ、教師の大変さを学んだ。」

意見 369 「本当にこっちでもすばらしい先生に出会うことができよかったです。」

意見 370 「実習校には、優れた先生がたくさんいらっしゃるのので地元で実習をするよりもとても良い
体験になった。」

意見 371 「とにかく、授業計画が大変だった。教師という仕事の大変さを知った。厳しかったがとて
も良い指導教官に出会えて幸せだった。」

次の意見は、自己の内面的変化を特に記述している。

意見 372 「自分の事を知るよい機会となった。」

意見 373 「自分の進路を考えるためのいい機会になった。」

意見 374 「自分の進路を決める上で、とても良い経験だった。」

意見 375 「1 ヶ月という期間の中で、いろんな経験ができて、成長できたと思う。自分がほんとうに
教師になりたいのかを見つめ直すことができた。」

意見 376 「自分を見つめなおす機会になった」

教育の奥の深さを感じて、それを述べている学生もいる。それは人間的な問題でもあり、教師とい
う仕事を自分が引き受けるかどうかという自問自答でもある。

意見 377 「教師という仕事は、生半可な気持ちでは務まらない、ということがよく分かりました。」

意見 378 「4 週間という期間で、子どもたちの個性をたくさん見つけ、それにみあった支援をしてい
くことの難しさを感じた。」

意見 379 「1 ヶ月間教員という立場で働き、教育とは、人に教えるとはいかに難しいことなのかを知
るよい機会にもなった。自分をよく見つめなおすことができたと思う。」

意見 380 「小学校・中学校の実習に行かせていただきました。本当に全くちがう体験であり、自分に
とっての適性についてすごく考えさせられました。本当に多くのことを学ばせていただきまし
た。」

意見 381 「総合的に自信を無くす場面が多くあったけれど、教師の仕事に魅力を感じることができ
た。」

意見 382 「教員になろうとするか、やめるかはこの教育実習ですべて決まると言っていていいほど、大変
貴重な体験ができたと思う。」

意見 383 「4 週間で、教師として必要なことだけでなく、社会人としての厳しさも理解することがで
き、学ぶことが多くあった。」

意見 384 「実習ではとても多くのことを学んだ。教師として、社会人として、どんなことを考えて行
動するべきか、子どもたちのためにしたらよいか、どんな授業にしたらよいか悩むことがで
きた。」

意見 385 「1ヶ月間の実習は教師としてだけでなく、人として成長できる経験となった。とても濃い実習だったと思う。」

意見 386 「人と人との関係がとても大事だとわかった。子どもたちだけではなく、先生とよい関係を築いて助け合っていかなければならないと感じた。」

意見 387 「子どもとの接し方だけではなく、担当の先生方とのかかわり方や社会人としてのマナーなども知ることができた。」

意見 388 「教職についても人との接し方についてもたくさん勉強になりました。」

意見 389 「勉学においても、人生においても貴重な経験だった。ものごとの視野が広がった。」

意見 390 「小学校、中学校の実習よりも特別支援学校での実習が一番経験となった。教育学部だけでなく、全体ですべきだと思う。」

意見 391 「特別支援学校は、行かないと実態が分からないので、教師を目指す人は、強制に近い形にした方が、後々役立ってくると思います。」

意見 392 「自信がついたとは言えないが、教師になる自分に何が欠けているか分かってきたように思う。」

意見 393 「楽しかったし、何よりも教員になりたいと思えるようになった。また自分の問題を理解するきっかけとなった。」

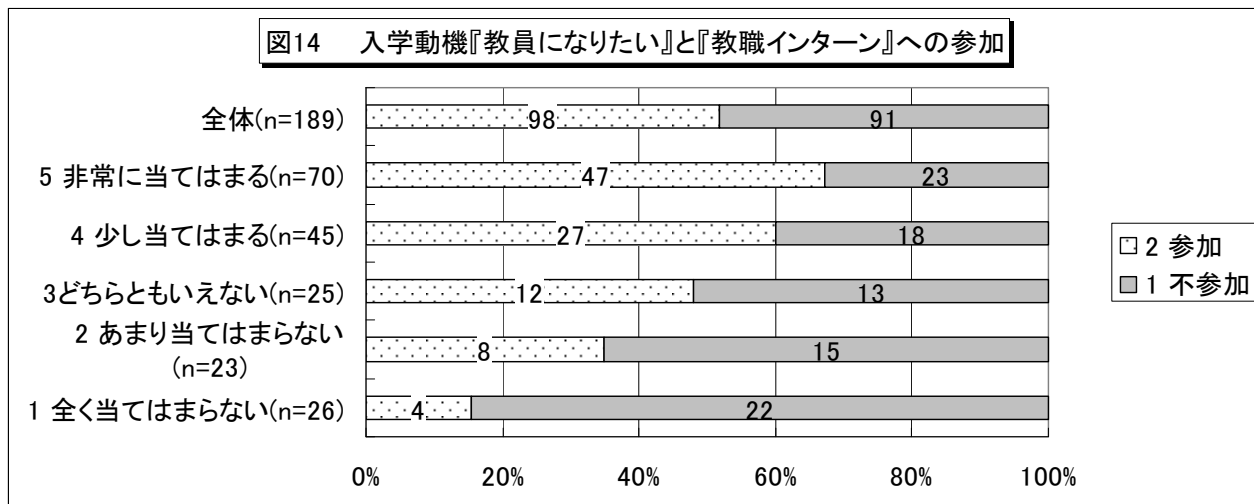
意見 394 「教員になろうと決めることができた。」

意見 395 「これまでは、授業する機会はなかったが、授業をして一層教師という仕事にふみ込んだことで、教師になりたいという気持ちが強くなったし、もっと関わっていたいという思いが強くなった。」

以上、教職プラクティス(教育実習)はきわめて濃密な体験であり、学生の成長に大きな影響を及ぼしていることが分かる。

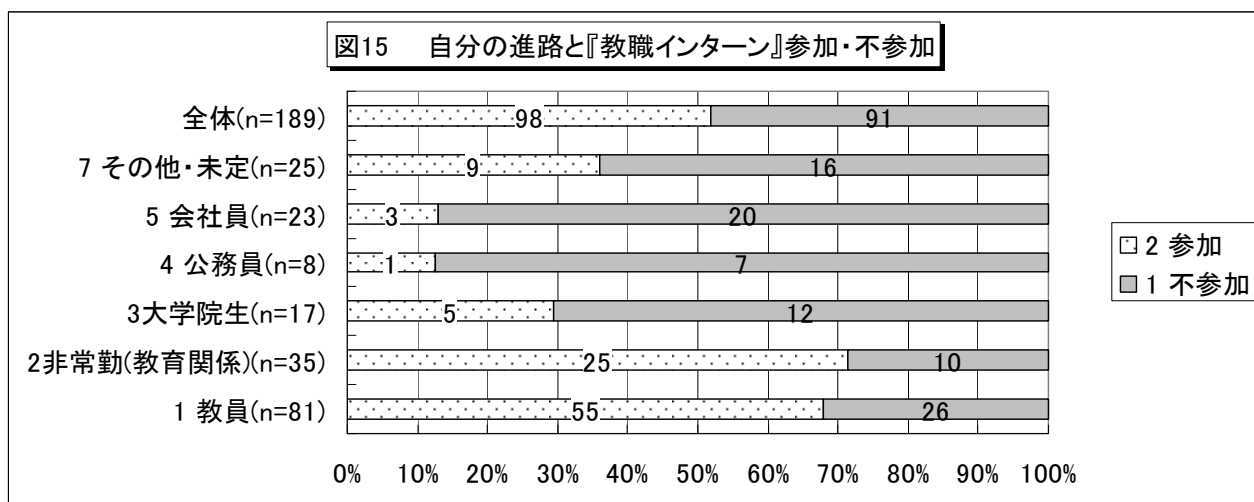
第8節 教職インターンの評価

最後の『教職インターン』に関する結果に移る。『教職インターン』は全くの選択科目であるため、まず参加の実態を分析した。図14に教育学部に入学した時の教員志望動機と教職インターンへの参加との関係を示した。



入学時の教員志望動機と教職インターンへの参加への参加確率は高い相関関係にあることが分かる。入学時に教員志望動機が強かった(「非常に当てはまる」)学生は有意に($p < .01$)教職インターンへ参加する割合が高かったが、逆に入学時に教員志望動機が低かった(「全く当てはまらない」)学生は有意に($p < .01$)教職インターンへ参加する割合が低かった。

図15に、教育学部卒業後の進路と教職インターンへの参加との関係を示した。

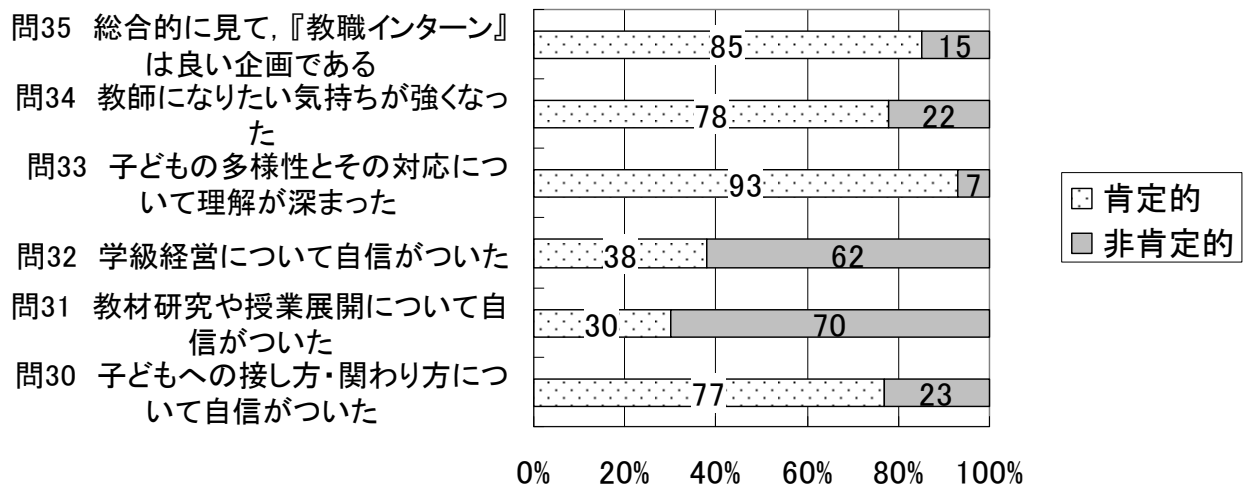


卒業後に常勤, 非常勤の教員になる予定の群では有意に教職インターンに参加する学生の割合が高かった(いずれも $p < .01$)。しかし民間会社に就職予定の学生は教職インターンに参加する学生の割合が低かった($p < .01$)。

つまり、教職インターンに参加するかどうかを決めるのは教員志望動機であることが分かった。

次に、『教職インターン』の評価結果を図16に示した。6つの質問項目について「4 少し当てはまる」「5 非常に当てはまる」を肯定的評価としてまとめ、「1 全く当てはまらない」「2 あまり当てはまらない」「3 どちらともいえない」を否肯定的評価として集計した。

図16 『教職インターン』の評価



各項目に肯定的評価と否定的評価の二項検定を実施したところ、以下のような有意差が得られた。

「問 30 子どもへの接し方・関わり方について自信がついた」 $p < .01$

「問 31 教材研究や授業展開について自信がついた」 $p < .01$

「問 32 学級経営について自信がついた」 $p < .05$

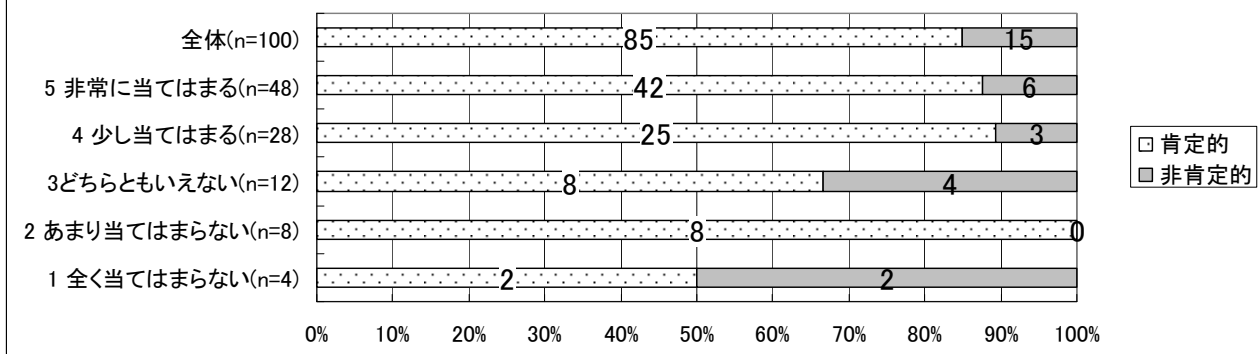
「問 33 子どもの多様性とその対応について理解が深まった」 $p < .01$

「問 34 教師になりたい気持ちが強くなった」 $p < .01$

「問 35 総合的に見て、『教職インターン』は良い企画である」 $p < .01$

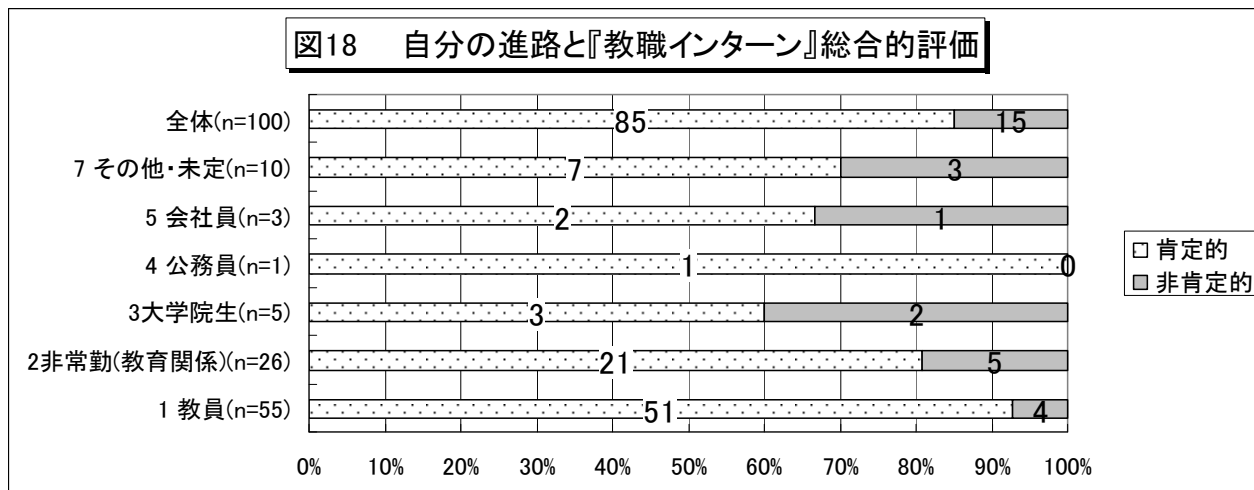
教職インターンに参加に参加した学生は、「子どもへの接し方・関わり方について自信がついた」「子どもの多様性とその対応について理解が深まった」「教師になりたい気持ちが強くなった」「総合的に見て、『教職インターン』は良い企画である」と肯定的に評価していた。しかし教職インターンは「教材研究や授業展開について自信がついた」「学級経営について自信がついた」には否定的な回答を示したことが分かる。

図17 入学動機『教員になりたい』と『教職インターン』総合的评价



入学時の教員志望動機と教職インターンへ総合評価との関係を図 17 に示した。入学時に教員志望動機が強かった(「非常に当てはまる」と「少しあてはまる」)学生、「あまり教員志望でなかった」学生の3つの下位集団では有意に(すべて $p < .01$) 肯定的評価が高かった。しかし入学時に教員志望動機が低かった(「全く当てはまらない」)学生は評価が分かれた。

図 18 に、教育学部卒業後の進路と教職インターンへの総合評価との関係を示した。



どんな職業を選択した場合でも教職インターンへの総合評価は肯定的であった。特に、常勤教員と非常勤教員になる予定の学生は統計的に有意に(ともに $p < .01$)、肯定的評価をすることが分かった。以上より、教職インターンは参加した学生により肯定的に評価されていたと言える。

第9節 自由記述から見た教職インターンの評価

まず第1回目の実施と言うこともあり、岐阜大学教育学部と教育現場との連絡不足のため、不都合が生じたと不満を述べている学生が見られた。

意見 401「インターンの主旨をしっかりと学校に説明して、大学生がどの立場にいるのかを統一してほしい。でも行って良かった。」

意見 402「先生方がインターンの学生をどう扱っていいのか困っていた印象がある。どこまで授業に参加していいのか、探り探りの毎日でした。」

意見 403「それぞれの学校によって、短期間で行うところもあれば、長期間で行うところもあり、差ができてしまう。私の学校は短期間で集中して行い、大学も忙しい時期だったので正直辛かった。4年生で教師の立場から、子どもの様子を捉えることができ、学べるところは大変多かった。」

意見 404「実際中学校に行った時、実習とまちがえて、期間が連続2週間、1日中という風にとらえられていました。インターンとはどういうものか、学生が何をしに行くのか、それが大学からインターン先の学校へと伝わっていませんでした。」

意見 405「学校側と大学側の意思の疎通がとれていなかったように思う。学校側は私たちが何を目的としてきているのか把握しきれない様子で、自分から頼んで学級に入らせて頂くなど、その繰り返しで肩身が狭かった。」

次の意見も日程や選択肢の増加を掲げていた。

意見 406「市内のどこの学校になるのかともっと早くわかったり、自分で選択できれば、やりたい人はもっといたと思う。」

意見 407「卒論・制作で忙しいので、もっと参加しやすい日程であれば参加したかったです。」

次の意見は実習の内容をもう一度実習校と打ち合わせをする必要があるだろう。

意見 408「楽しむことはできるが、学習へのつながりは難しい。」

意見 409「「教育研究校」といわれる所に行ったので、先生方はいそがしく、あまり行っている意義を感じなかった。子どもはかわいかったが、もう少し先生方にゆとりのあるところに行きたかった。とても申し訳ない感じで、行くのがつらかった。」

意見 410「週に一回で2ヶ月ほどと期間がびみょうであった。」

次の意見は感動なり、好意的意見なりであり、教職インターンでは教育実習を発展させて学んでいる姿がうかがえる。

意見 411「実習校とは違う雰囲気の中で子どもたちと関わったのはうれしかったが、どうしても1週間に1回程度しか行けないため、関係をつくりづらかった。」

意見 412「これは本当に、行ってよかったと思う。お世話になった学校には非常に恵まれた。」

意見 413「教採前で行動おうかすごく迷ったけれど、子どもと自分を生かしながら接することで教師になりたいと強く思うことができ、教師になりたいと強くよい刺激になった。また、プラクティスでは学べなかったことも学べ、すごくよい勉強になった。」

意見 414「1週間に一度だったのもっとあってもいいと思いました。」

意見 415 「トライアル，リサーチ，プラクティス，インターンと多くの学校を見て，多くの子どもたちと接してきたことで，少し自信もついたし，増々早く教師になりたい，こんなクラスにしたいなどの思いが強まった。」

意見 416 「本当に参加できてよかった。これまでの経験をもとにして実践できた部分や，インターンを通して新たに学ぶこと，感じることもたくさんあった。実習のときよりゆとりをもって子どもたちと関わったのがよかったと思う。教採直前のこの時期にあらためて，教師になりたい気持ちを確かにできた。」

意見 417 「A市は1校につき1人の配置で，先生方も細かく対応してもらえて嬉しかった。」

意見 418 「とてもよかった！！勉強になった。」

意見 419 「実習させてもらった学校の先生がとても丁寧に多くのことを教えて下さり，とても良い勉強になった。」

意見 420 「子どもにいい刺激になって，毎週楽しみにしてくれていた。」

意見 421 「とても楽しかったです。」

次の意見は，教員採用試験に向けて，「実利」があることを述べている。

意見 422 「教採の前に現場で経験することができていいと思う。」

意見 423 「教育実習とはまた違う視点からみることができ，教採時の面接の話題も豊富にできる機会となった。」

意見 424 「教採の心がまえがもてた。」

意見 425 「週に1回というペースが，教採前の負担にならず，とても良いと思います。なおかつ貴重な体験や出会いができるのだから。」

次の意見は，実習先の先生への感謝・モデル化，発展的な学習内容について述べていた。

意見 426 「インターン先の先生方に熱心に関わっていたことで，プラクティス後，現場を見ることがなかった私にとって，よい経験になった。」

意見 427 「授業以外で子ども達と関わる意味で良かった。」

意見 428 「以前からボランティアとして行っていたので大きな変化はなかった。」

意見 429 「実習校とはまたちがう学校へ行って，実習の時よりも実際の現場を体験できたように思う。（授業をするという点以外では）」

意見 430 「実習での反省や課題を生かして実践できたので良かった。」

意見 431 「全学年の様子を見れたので，実習とはちがった勉強ができた。」

意見 432 「自分が行った先の理科の先生が，教科のスペシャリストで，自分がこの先授業で大切にしていきたいことの多くを見つけられた。また，全校生徒が非常に少ない学校で，その良さと難しさの両面を学べた。」

意見 433 「本当の現場を体験できて，大変有意義だった。」

意見 434 「教師になる上で大切なことをたくさん学ばせていただいた。教師になりたいという思いが強まった。」

意見 435 「プラクティスの時よりも時間的にも精神的にも余裕があったために先生の仕事というものを子どもと関わる部分だけでない大変さを感じました。より先生の仕事を理解する上で必要な時間でした。」

意見 436 「長期的に子どもたちに関わる場があつてとても良かった。」

意見 437 「約1年間関わらせてもらい、子どもの成長を見ることができた。また教師としてどうあるべきか、教師が子どもへどう声かけするか、そして教師の裏の仕事など幅広く学べた。」

意見 438 「プラクティスを終えたこともあり、立ち振る舞いもわかってきていたので、授業の補佐、TTと活動できました。」

意見 439 「教育プラクティスとは違った雰囲気の中参加できてよかった。また今まで学んできた事経験してきた事などをふまえて取り組めたためすごく勉強になった。貴重な体験ができ、よかった。」

意見 440 「一般校にも行けてよかった。一学期という長期間にわたって現場に入れた事がよかった。」

意見 441 「先生が子どもがいない時どのような仕事をしているかわかった。」

意見 442 「盲学校・聾学校に行かせてもらい、知的障害などの特別支援学校の子どもとちがう子ども達と関わることで勉強になりました。」

意見 443 「リサーチ同様、実習校ともちがった雰囲気でもよかった。副担任や、事務の人の仕事も分かってよかった。」

意見 444 「教育実習のときよりも冷静に、自分を見つめることができた。」

意見 445 「通常学級ではなく、特別支援学級に配属されたので、よい勉強になった。」

意見 446 「これまでの経験を生かし子どもと接することができた。」

意見 447 「授業をしなくても良いので、心にゆとりをもって子ども達と接する事ができたと思う。」

意見 448 「教職インターンで本当に普通の学校に行き現状を知ることができた。教育実習のときとはちがって冷静に自分を見つめることができ、別の道を考えることができた。でもその学校の先生方はすごく熱心で、いろいろなことを教えてくださったのでとても感謝しています。」

意見 449 「教育実習は自分のことでいっぱいになるが、インターンではもっと余裕を持って、色々なことを見ることが出来る機会だった。実習のときとは、また違う子どもたち、違う学年を見ることができ、考え方や視野が広がった。」

意見 450 「実習後に、行われたため、また違う視点で、おちついて授業に参加できた。今までよりも、積極的に子どもたちと関わる事ができた。」

意見 451 「教育実習を終えての実習なので、かなり積極的にクラスに関わっていける実習となった。」

意見 452 「長い期間、子どもを見ることができたので、成長がよくわかった。」

意見 453 「プラクティスとはまたちがって、先生方の裏側？を見ることができて(放課後や更衣室での会話など)“学校”というものがもっとわかった気がした。」

意見 454 「3年生の時とちがい、自分の地元の教育にふれ、すごく、すごくなつかしかったです。学校側もアットホームに受け入れて下さり、ありのままの自分が出せた気がします。」

意見 455 「地元の小学校に行くことができ、良かった。実習校は、あまりに私が学んできた学校とかけ離れていた。現場でいかすことができるようにと、いろいろ声をかけていただいた。その配慮に感謝したい。研究があつたため、週1回しか行くことかできなかった。もっとたくさん行くことができたなら、もっとたくさん学べたのになあと思う。」

以上のように、教職インターンは教育実習を発展させた学びを学生がしていることが読み取れた。

第10節 ACTプラン全体の評価

教職トライアル、教職リサーチ、教職プラクティス、教職インターンと続くACTプランにより学生はどのように変容を示したのであろうか。

表1 大学入学動機と卒業後の進路・職業

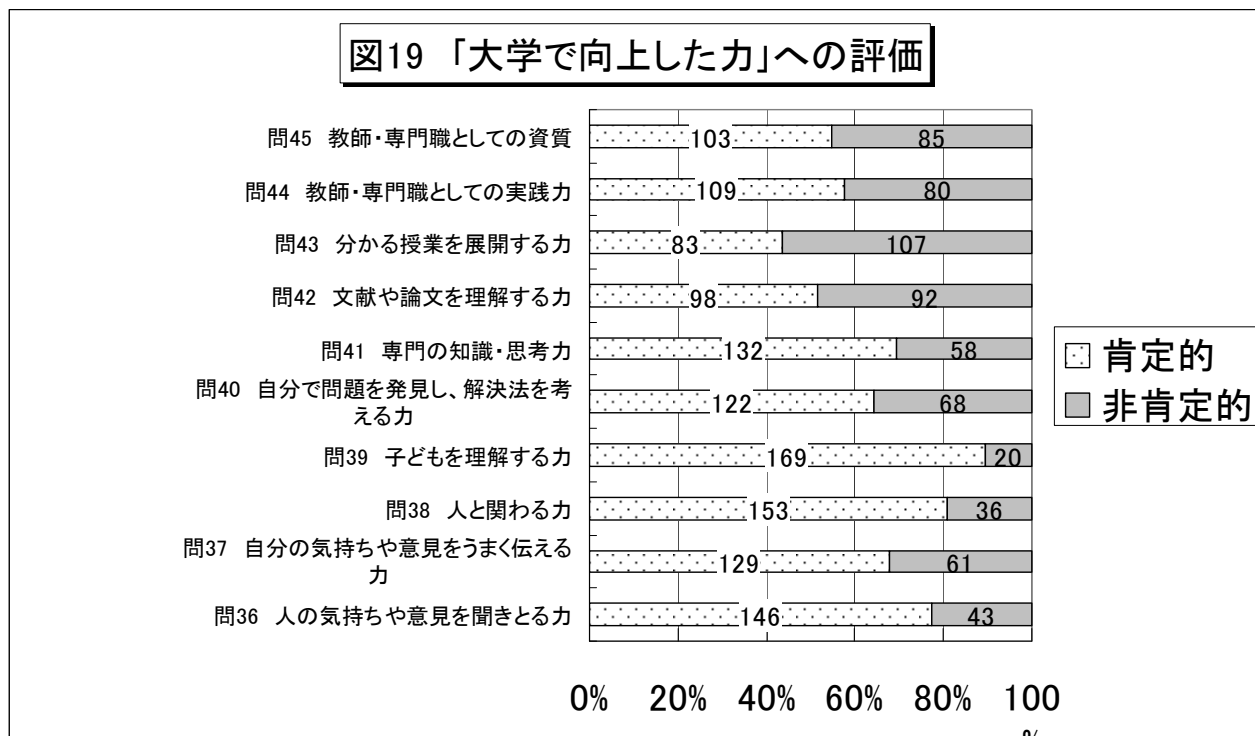
『教員になりたかったから』岐阜大学教育学部に入学した							
		1 全く当てはまらない (n=26)	2 あまり当てはまらない (n=23)	3 どちらともいえない (n=25)	4 少し当てはまる (n=45)	5 非常に当てはまる (n=71)	全体 (n=190)
これからの進路・職業	1 教員 (n=81)	3	6	9	22	41	81
	2 非常勤 (教育関係) (n=36)	1	3	4	9	19	36
	3 大学院生 (n=17)	3	3	5	2	4	17
	4 公務員 (n=8)	1	2	2	2	1	8
	5 会社員 (n=23)	11	4	4	2	2	23
	7 その他・未定 (n=25)	7	5	1	8	4	25
	全体 (n=190)	26	23	25	45	71	190

表1は大学入学動機と卒業後の進路・職業とのクロス集計表である。右上の四角内の計91名の学生は、大学入学時に「教員になりたかった」ので教育学部に入学し、教員となって卒業していく学生である。左下の四角内の計18名の学生は、大学入学時に「教員になりた」とは思わないで教育学部に入学し、教員以外の進路に進んでいく学生である。これらの学生は自らの志望にしたがって大学生活を送ったものと思われる。

左上の四角内の計13名の学生は、大学入学時には「教員になりた」とは思わないで教育学部に入学したが、卒業後の進路として教員を選んだ学生である。これらの学生は大学での学習の中で教員志望に変化していったと思われる。逆に右下の四角内の計7名の学生は、大学入学時には「教員になりたい」と思って教育学部に入学したが、卒業後の進路としては非教員を選んだ学生である。これらの7名の学生は大学生活の中で教員以外の進路に変化していったと思われる。この2群は全く逆の進路変更であるが、統計的にはどちらが多いとは言えない値であった。したがって進路変更に関しては教育効果を見出すことができなかった。

図19は、「これまでの岐阜大学教育学部での大学生活を振り返ったとき、大学での授業と教育現場での実習を通して、あなたはどんな力が向上したと思いますか。」との質問に対する回答である。10

つの質問項目について「4 少し当てはまる」「5 非常に当てはまる」を肯定的評価としてまとめ、「1 全く当てはまらない」「2 あまり当てはまらない」「3 どちらともいえない」を否定的評価として集計した。



肯定的、非肯定的の二項検定の結果は以下のようであった。

「人の気持ちや意見を聞きとる力」 $p < .01$

「自分の気持ちや意見をうまく伝える力」 $p < .01$

「人と関わる力」 $p < .01$

「子どもを理解する力」 $p < .01$

「自分で問題を発見し、解決法を考える力」 $p < .01$

「専門の知識・思考力」 $p < .01$

「文献や論文を理解する力」 $p > .10$ n. s.

「分かる授業を展開する力」 $p > .10$ n. s.

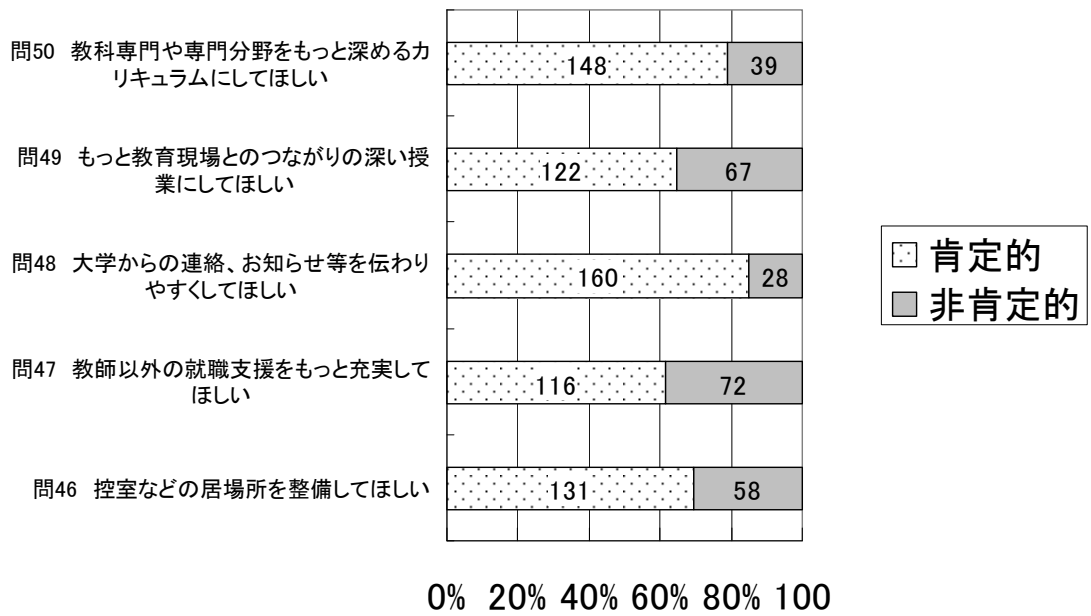
「教師・専門職としての実践力」 $p < .05$

「教師・専門職としての資質」 $p > .10$ n. s.

つまり、学生は大学を卒業するに当たり、「人の気持ちや意見を聞きとる力」「自分の気持ちや意見をうまく伝える力」「人と関わる力」「子どもを理解する力」などの対人的能力、コミュニケーション能力などの「教師・専門職としての実践力」が向上したと認知していた。また「自分で問題を発見し、解決法を考える力」「専門の知識・思考力」などの「教師・専門職としての実践力」も向上したと認知していた。しかし「分かる授業を展開する力」「文献や論文を理解する力」は十分向上したとは認知していなかった。

最後に、岐阜大学教育学部への要望を検討する。図 20 は「岐阜大学教育学部への要望についてどう思いますか」との質問に対する回答である。各項目について「4 少し当てはまる」「5 非常に当てはまる」を肯定的評価としてまとめ、「1 全く当てはまらない」「2 あまり当てはまらない」「3 どちらともいえない」を否定的評価として集計した。

図20 「岐阜大学教育学部」への要望



肯定的、非肯定的の二項検定の結果は全ての項目において有意差が見られた(すべて $p < .01$)。すなわち、学生は「もっと教育現場とのつながりの深い授業にしてほしい」という要望も、「教科専門や専門分野をもっと深めるカリキュラムにしてほしい」という要望も、ともに望んでいることが分かった。

以上、ACT プランを質問紙に現れた回答と自由記述から見てきた。

教育実践はただやみくもに進めるだけでは不十分である。必ず評価が必要である。これまでも教育実習の効果を測定しようとする試みもいくつかなされている。今回、初めて4年生からの評価をいただいた。ACT プランはまだ始まったばかりであり、多くの課題が残されている。教育現場で学んでくるものは大きいと思われる。それらの体験を理論化し、意味づけを与える授業が大学教育の側に用意されていないといけない。この課題こそが教員養成学部・大学の独自の存在意味となりうるのであろう。

学生による ACT プラン評価：教育学部副学部長 宮本 正一

岐阜大学教育学部 4 年生各位

4 年生による ACT プラン評価のお願い

教育学部運営委員会

岐阜大学教育学部では教員としての実践的な力を育成していくために、大学で『理論』を学び、教育現場で『実践』を学び、両者の往復的な学習を可能とする、**教職トライアル**、**教職リサーチ**、**教職プラクティス**、**教職インターン**と続く **ACT プラン**を実施してまいりました。そして4年生の皆さんはその第1期生に当たります。そこで教育学部運営委員会では学部教育の一層の充実のため「4年生による ACT プラン評価」を行うことになりました。お忙しいところ誠に恐縮ですが、以下の質問にご協力をお願い申し上げます。皆さんの回答は教育学部の自己評価以外の目的には使用いたしません。また全体の意見集約を目的にしており、個人を特定することはありませんので、匿名でお願いします。

末尾ながら、皆様にはますますのご発展、ご活躍をお祈り申し上げます。

(回答は 50 問式マークカードに HB の鉛筆でマークして下さい。氏名は記入しないでください。)

A あなた自身について

[学籍番号の欄に右詰めで回答] あなたが所属する講座は次のうちどれですか。

- 11 国語教育 12 社会科教育 13 数学教育 14 理科教育 15 音楽教育
16 美術教育 17 保健体育 18 技術教育 19 家政教育 20 英語教育
21 学校教育 22 生涯教育講座 23 特別支援教育 24 生涯教育課程

問 1 平成 20 年 4 月からの進路・職業は何ですか(見込みを含む)。

- 1 教員 2 非常勤(教育関係) 3 大学院生 4 公務員
5 会社員 6 非常勤(教育関係以外) 7 その他・未定

B 岐阜大学教育学部に入学した動機について、次の各項目について最も当てはまる数(1~5)をマークして下さい。

- 1 全く当てはまらない 2 あまり当てはまらない 3 どちらともいえない
4 少し当てはまる 5 非常に当てはまる

問 2 教員になりたかったから ()

問 3 学びたい教科・講座があったから ()

問 4 いろいろな資格が取りたかったから ()

問 5 大学入試センター試験成績等を考慮したから ()

問 6 地元の大学だから ()

問 7 高校の先生や家族など周りの人に勧められたから()

問 8 どのような入試で岐阜大学教育学部に入学されましたか。

1. 前期日程 2. 後期日程 3. 推薦 I or II 4. 社会人・私費外国人等

C 大学1年生の前期・金曜日午前中，附属小中学校へ出向き，授業を観察し，大学でそれをもとに討論を行いました。この『教職トライアル(教師論)』について，次の各項目について最も当てはまる数(1～5)をマークして下さい。

- 1 全く当てはまらない 2 あまり当てはまらない 3 どちらともいえない
4 少し当てはまる 5 非常に当てはまる

問9 客観的に子ども・教室・教師・学校を見ることができた ()

問10 教師の仕事，役割，責任についての理解が深まった ()

問11 社会人としてのエチケット，マナーを学ぶことができた ()

問12 教育を受ける立場から教育を行う立場に移行して考えられた()

問13 自分が教師に向いているかどうかを考える良い機会になった()

問14 総合的に見て，『教職トライアル(教師論)』は良い企画である()

『教職トライアル(教師論)』について自由に意見を述べてください。

D 大学2年生の9月に，岐阜市内の小学校(and or)中学校へ1週間ずつ出向き，学校現場を「研究」しました。この『教職リサーチ』について，次の各項目について当てはまる数(1～4)をマークして下さい。

問D [学籍番号の欄に左詰めで回答]

あなたはどのような『教職リサーチ』に参加しましたか。

1. どちらにも参加しなかった(質問Fへ) 2. 小学校にだけ参加した
3. 中学校にだけ参加した 4. 小中，両方参加した

E 『教職リサーチ』に関して，次の各項目について最も当てはまる数(1～5)をマークして下さい。

- 1 全く当てはまらない 2 あまり当てはまらない 3 どちらともいえない
4 少し当てはまる 5 非常に当てはまる

問15 子どもへの接し方・関わり方についての理解が深まった ()

問16 教材研究や授業展開についての理解が深まった ()

問17 教師の仕事，役割，責任についての理解が深まった ()

問18 自分自身の性格・能力・適性について考える良い機会になった()

問19 教師になりたい気持ちが強くなった ()

問20 総合的に見て，『教職リサーチ』は良い企画である ()

『教職リサーチ』について自由に意見を述べてください。

F 大学3年生の時、小学校(and or)中学校教育実習が4週間ずつありました。また特別支援学校・高等学校・幼稚園実習もありました。これらの『教職プラクティス(教育実習)』について、次の各項目について最も当てはまる数をマークして下さい。

問21 あなたは上記『教育実習』のどれかに参加しましたか。

1. 全く参加しなかった(質問Hへ) 2. 少なくとも1つに参加した

G いずれかの教育実習に参加された方にお聞きします。これらの『教職プラクティス』について、次の各項目について最も当てはまる数(1~5)をマークして下さい。

- 1 全く当てはまらない 2 あまり当てはまらない 3 どちらともいえない
4 少し当てはまる 5 非常に当てはまる

問22 子どもへの接し方・関わり方について自信がついた ()

問23 教材研究や授業展開について自信がついた ()

問24 学級経営について自信がついた ()

問25 教師の仕事、役割、責任についての理解が深まった ()

問26 自分自身の性格・能力・適性について考える良い機会になった ()

問27 教師になりたい気持ちが強くなった ()

問28 総合的に見て、『教職プラクティス』は自分を成長させる体験である ()

『教職プラクティス(教育実習)』について自由に意見を述べてください。

H 大学4年生の時に企画された『教職インターン』について、当てはまる数をマークして下さい。

問29 あなたは『教職インターン』に参加しましたか。

1. 参加しなかった(質問Jへ) 2. 参加した

I 『教職インターン』に参加された方についてお尋ねします。『教職インターン』について、次の各項目について最も当てはまる数(1~5)をマークして下さい。

- 1 全く当てはまらない 2 あまり当てはまらない 3 どちらともいえない
4 少し当てはまる 5 非常に当てはまる

問30 子どもへの接し方・関わり方について自信がついた ()

問31 教材研究や授業展開について自信がついた ()

問32 学級経営について自信がついた ()

問33 子どもの多様性とその対応について理解が深まった ()

問34 教師になりたい気持ちが強くなった ()

問35 総合的に見て、『教職インターン』は良い企画である()

『教職インターン』について自由に意見を述べてください。

J これまでの岐阜大学教育学部での大学生活を振り返ったとき、大学での授業と教育現場での実習を通して、あなたはどんな力が向上したと思いますか。次の各項目について最も当てはまる数(1～5)をマークして下さい。

- 1 全く向上していない 2 あまり向上していない 3 どちらともいえない
4 少し向上した 5 非常に向上した

- 問 36 人の気持ちや意見を聞きとる力 ()
問 37 自分の気持ちや意見をうまく伝える力 ()
問 38 人と関わる力 ()
問 39 子どもを理解する力 ()
問 40 自分で問題を発見し、解決法を考える力 ()
問 41 専門の知識・思考力 ()
問 42 文献や論文を理解する力 ()
問 43 分かる授業を展開する力 ()
問 44 教師・専門職としての実践力 ()
問 45 教師・専門職としての資質 ()

K 次の岐阜大学教育学部への意見・要望について、あなた自身はどう思いますか。次の各項目について最も当てはまる数(1～5)をマークして下さい。

- 1 全くそう思わない 2 あまりそう思わない 3 どちらともいえない
4 少しそう思う 5 非常にそう思う

- 問 46 控室などの居場所を整備してほしい ()
問 47 教師以外の就職支援をもっと充実してほしい ()
問 48 大学からの連絡、お知らせ等を伝わりやすくしてほしい ()
問 49 もっと教育現場とのつながりの深い授業にしてほしい ()
問 50 教科専門や専門分野をもっと深めるカリキュラムにしてほしい ()

L 大所高所から、岐阜大学教育学部へのご意見を自由にお書きください。

※ご協力に感謝いたします。有難うございました。